

第1編 上野 I 遺跡

第1章 既往の調査

これまで上野I遺跡では、昭和62年に長野原町教育委員会によって詳細分布調査が行われたのみで、本調査は今回が最初である。今回の土地改良事業に伴う発掘調査を行うに当たり、試掘調査が行われた。その際に平安時代の堅穴住居跡や織文土器、弥生土器、須恵器、陶磁器などが発見され、本調査に至った。

第2章 調査の経過

上野I遺跡の発掘調査は、平成30年5月10日から開始し、同年10月12日に終了した。

5月10日、群馬県八ツ場ダム水源地域対策事務所、長野原町役場産業課、長野原町教育委員会との表土掘削および排土置き場について打ち合せを行う。5月28日、表土掘削を開始する。表土掘削は排土の安全性から全面掘削ではなく東西に分けて打って返して行うこととし、東側区画から開始した。発掘調査後に圃場整備工事が行われるため、畑の耕作土とその下層土を分けておく必要があり、先行して畑土の掘削を行なった。

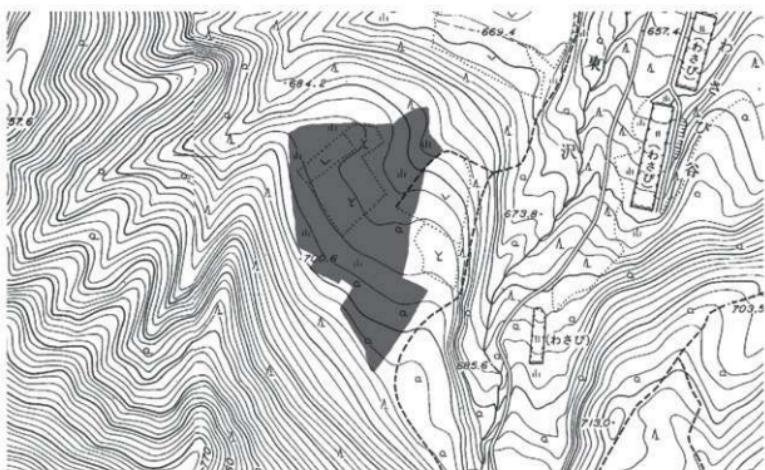
6月6日、下層土の掘削を開始し、並行して南東部から遺構確認作業を行なった。6月13日、陥し穴を含む土坑・溝の遺構精査を開始する。

7月10日、東側区画の表土掘削が終了した。7月11日、SI01の遺構掘削を開始する。

8月2日、空中写真撮影を実施する。SI01、陥し穴の掘り方調査を開始する。8月3日、打って返しのため排土の移動を開始する。8月23日、畑土の掘削を開始する。8月31日、下層土の掘削を開始した。

9月1日、西側区画の遺構確認作業を開始する。9月6日、SI02、SI03、土坑の遺構掘削を開始する。9月10日、SI04の遺構掘削を開始する。9月11日、西側区画の表土掘削が終了した。

10月4日、空中写真撮影を実施する。10月5日、SI02～04の掘り方調査を開始する。10月12日、長野原町教育委員会が調査終了を確認した。器材等の撤収作業を行い、発掘調査を終了した。



第7図 調査区位置図(1/2,500)

第3章 基本層序

今回の発掘調査の基本土層は、A地点（東部）・B地点（南東部）・C地点（北西部）・D地点（北東部）の計4か所で確認した。基本層序は以下の通りである。

第I層 黒褐色土：表土層で現代の畑の耕作土である。粘性はなく、しまりはある。試掘57号トレーナー1層に相当する。

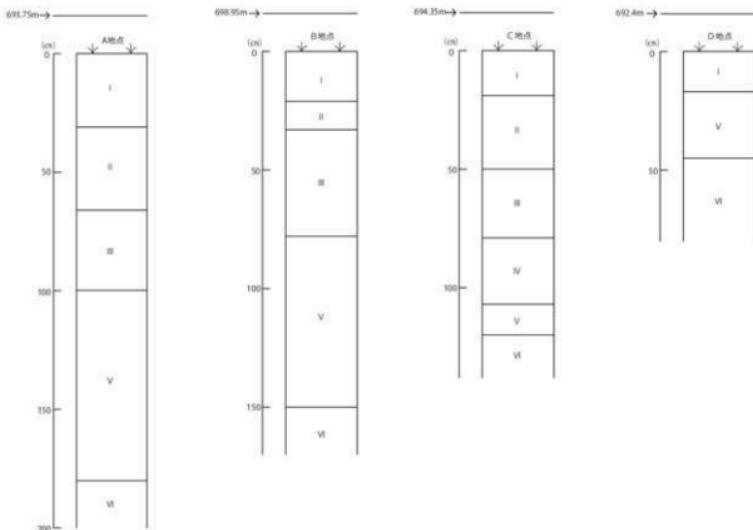
第II層 黄褐色土：粘性はややあり、しまりはある。黒褐色土・YPk ($\phi 0.5 \sim 2.0\text{cm}$) 含む。遺物包含層で縄文土器、弥生土器、土師器が出土している。試掘57号トレーナー5層に相当する。

第III層 黄褐色土：粘性はややあり、しまりはある。遺構確認面でSiO₃を確認している。試掘57号トレーナー6層に相当する。

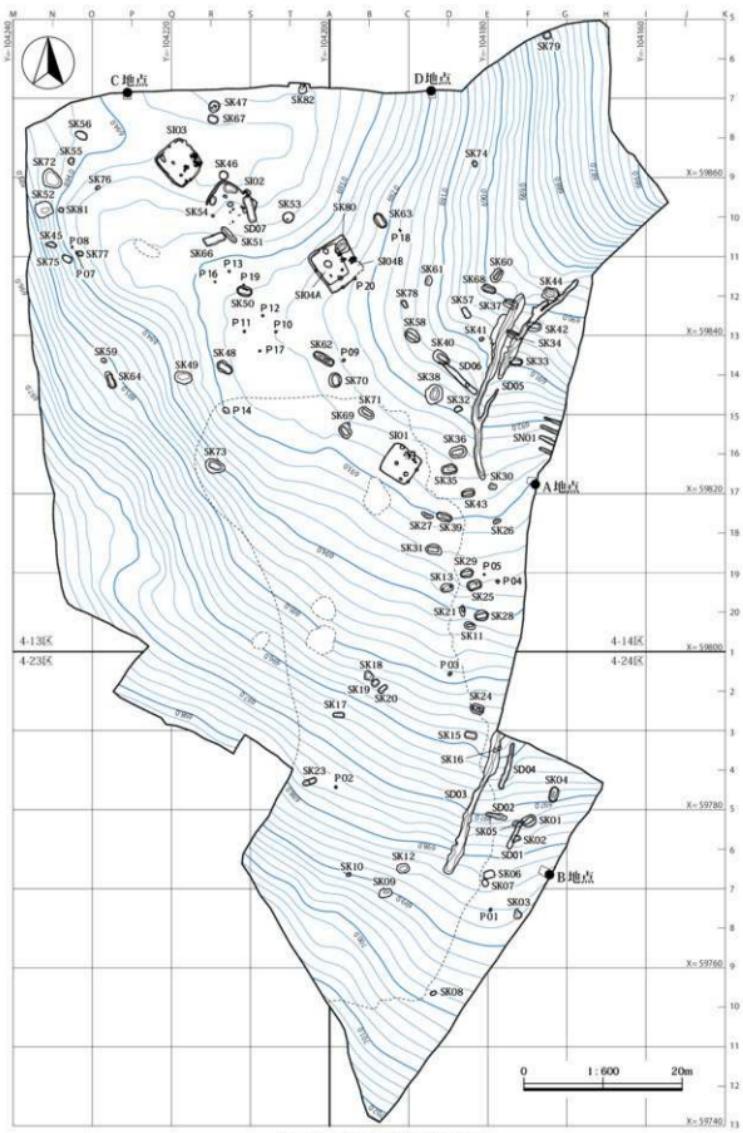
第IV層 明黄褐色土：やや砂質。粘性はなく、しまりはある。ローム層で調査区北西部の標高の高いC地点で確認されている。

第V層 明黄褐色土：ローム層。粘性はややあり、しまりはある。YPk ($\phi 0.3 \sim 1.0\text{cm}$) 含む。

第VI層 明黄褐色砂：YPk 層。



第8図 基本土層柱状図(1/20)



第9図 調査区全体図(1/600)

第4章 検出された遺構と遺物

第1節 遺跡の概要

上野I遺跡は群馬県吾妻郡長野原町大字横壁に所在する。吾妻川流域地帯に属し、吾妻川の支流である深沢と白岩沢に挟まれた吾妻川右岸の中位段丘面の南方の、丸岩山の北西面の山脚地帯に位置する。吾妻川支流の東沢の中流の左岸に位置する尾根上に立地する。遺跡のある尾根は、丸岩から北東に向かって伸び、丸岩山の山脚のうち比較的幅広い。この尾根上には、南北の上下二段に分かれる緩斜面があり、本遺跡は南側上段の緩斜面に立地する。前方緩斜面が上野II遺跡である。標高は685m～702mで、現況は畠地と広葉樹林地である。

今回の発掘調査は上野I遺跡の第1次調査にあたる。調査範囲は畠地部分の東半分と広葉樹林地の北半分にあたり、大字横壁字上野 787 外に所在する。発掘調査で確認された遺構は、縄文時代晚期から弥生時代前期の土坑10基、ピット1基、平安時代の堅穴住居跡5軒、陥し穴33基、平安時代末～中世の陥し穴2基、時期不明の土坑34基、溝7条、烟跡1面、ピット16基である。出土した遺物の種類は、縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、灰釉陶器、鉄製品、陶磁器、石器で、その数量はテンバコで3箱分であった。

第2節 縄文・弥生時代の遺構と遺物

(1) 土坑

SK46 (第10図)

位置 4-13区R-8 **重複関係** なし。 **遺存状態**

良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、人為的な堆積を示す。

平面形と規模 円形を呈する。規模は長軸110cm、短軸100cm、深さ28cm。 **主軸方位** N-72°-E **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦。 **遺物** 縄文土器片が3点出土したが、小破片のため図示しなかった。

備考 出土遺物から縄文時代と考えられる。

SK47 (第11・14・15図／第13表／PL 2・7)

位置 4-13区R-7 **重複関係** なし。 **遺存状態**

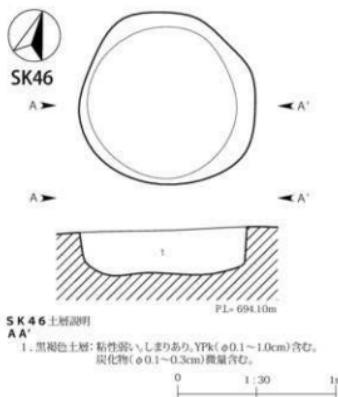
良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、人為的な堆積を示す。

平面形と規模 円形を呈する。規模は長軸148cm、短軸130cm、深さ39cm。 **主軸方位** N-21°-E **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦。 **遺物**

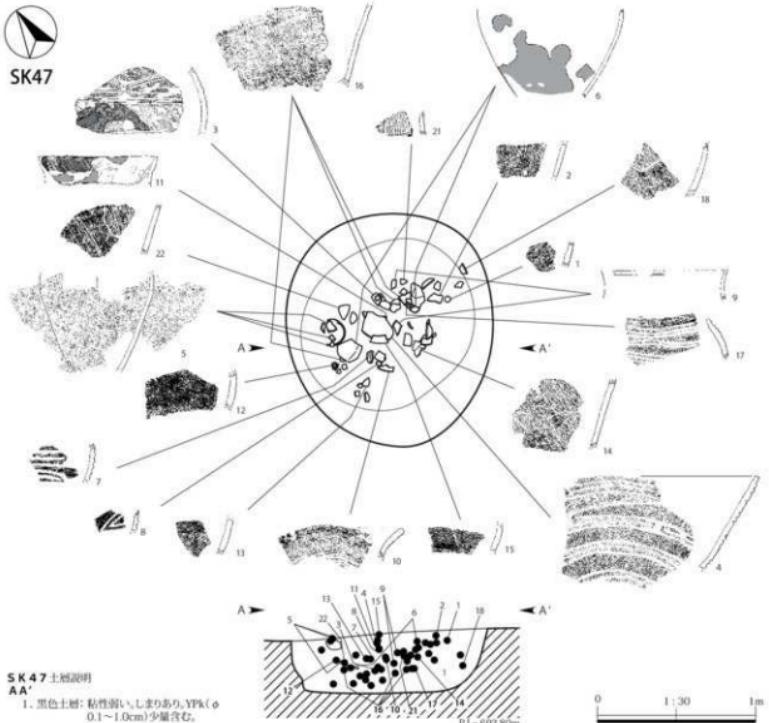
縄文土器24点、弥生土器58点が出土し、縄文土器8点、弥生土器14点を図示した。縄文土器では混入物の中期初頭の五領ヶ台式が2点見られた。また晚期後半と見られる変形工字文の土器がSK67出土の土器と接合した（第14図17）。弥生土器では条痕文を施す壺が多く見られた。 **備考** 出土遺物から縄文時代晚期から弥生時代前期と考えられる。

SK53 (第12・15図／第13表／PL 2・7)

位置 4-13区S-9 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、人為的な堆積を示す。 **平面形と規模** 円形を呈する。規模は長軸142cm、短軸132cm、深さ37cm。 **主軸方位** N-65°-E **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦。 **遺物** 縄文土器が1点、弥生土器の壺片が2点出土し、晚期後半と見られる変形工字文の浅鉢1点を図示した。 **備考** 出土遺物から縄文時代晚期から弥生時代前期と考えられる。



第10図 SK46実測図(1/30)



第11図 SK47実測図(1/30)

SK55 (第12・15図/第13表/PL 2・7)

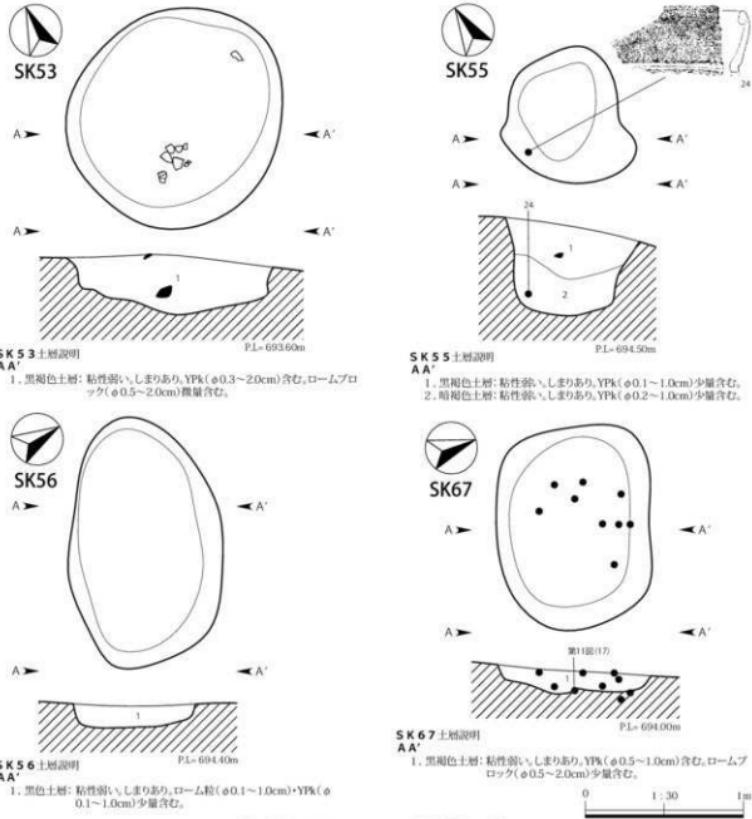
位置 4-13区N-8 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、人為堆積を示す。
平面形と規模 楕円形を呈する。規模は長軸91cm、短軸83cm、深さ56cm。 **主軸方位** N-24°-W
壁面 外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦。 **遺物** 繩文土器片が4点、弥生土器片が6点出土し、弥生土器の壺の口縁部片1点を図示した。 **備考** 出土遺物から繩文時代晚期から弥生時代前期と考えられる。

SK56 (第12図)

位置 4-13区N-7 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒色土が基調で、人為堆積を示す。
平面形と規模 楕円形を呈する。規模は長軸158cm、短軸94cm、深さ14cm。 **主軸方位** N-65°-W
壁面 外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦。 **遺物** 弥生土器の壺片が4点出土しているが、小破片のみ図示しなかった。 **備考** 出土遺物から弥生時代と考えられる。

SK67 (第12・14図/第13表/PL 3・7)

位置 4-13区R-7 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、人為堆積を示す。



第12図 SK53・55・56・67実測図(1/30)

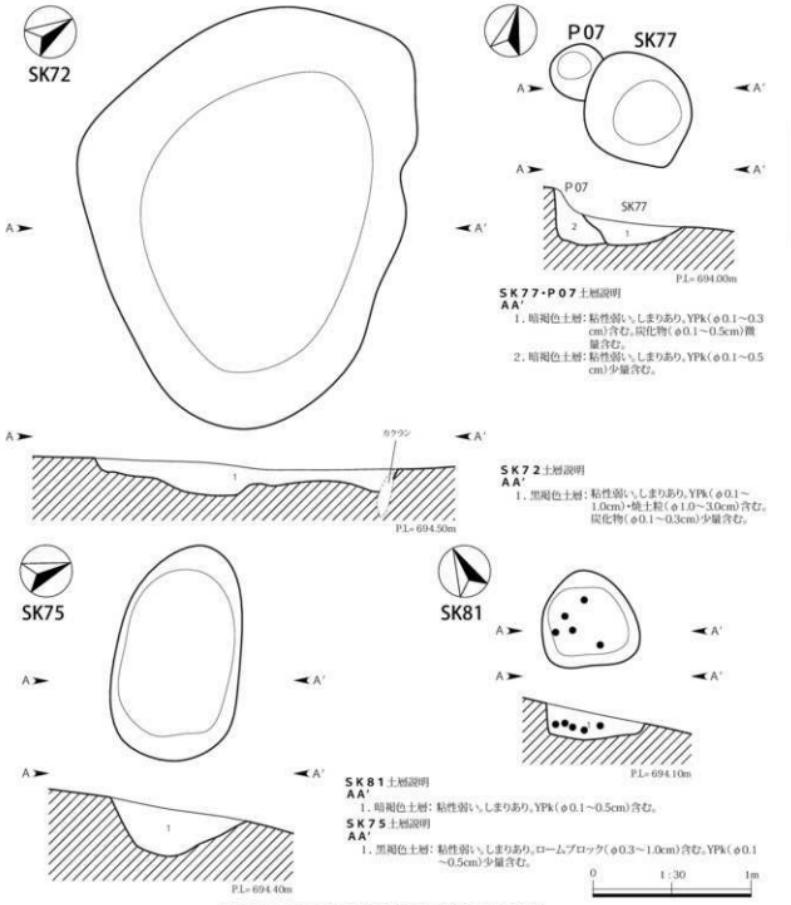
平面形と規模 楕円形を呈する。規模は長軸 129cm、短軸 95cm、深さ 15cm。**主軸方位** N - 69° - W
壁面 外傾して立ち上がる。**底面** 概ね平坦。**遺物** 繩文土器片が 15 点、安山岩の剥片が 1 点出土しているが、SK47 出土の土器と接合した土器片（第 14 図 17）の他は、小破片のため図示しなかった。**備考** 出土遺物から縄文時代晩期から弥生時代前期と考えられる。

SK72 (第 13 図)

位置 4-13 区 M-9 **重複関係** なし。**遺存状態** 良好。**覆土** 黒褐色土が基準で、人為堆積を示す。

平面形と規模 楕円形を呈する。規模は長軸 270cm、短軸 210cm、深さ 20cm。**主軸方位** N - 37° - W

壁面 外傾して立ち上がる。**底面** 概ね平坦。**遺物** 繩文土器片が 86 点出土しているが、小破片のため図示しなかった。**備考** 出土遺物から縄文時代と考えられる。



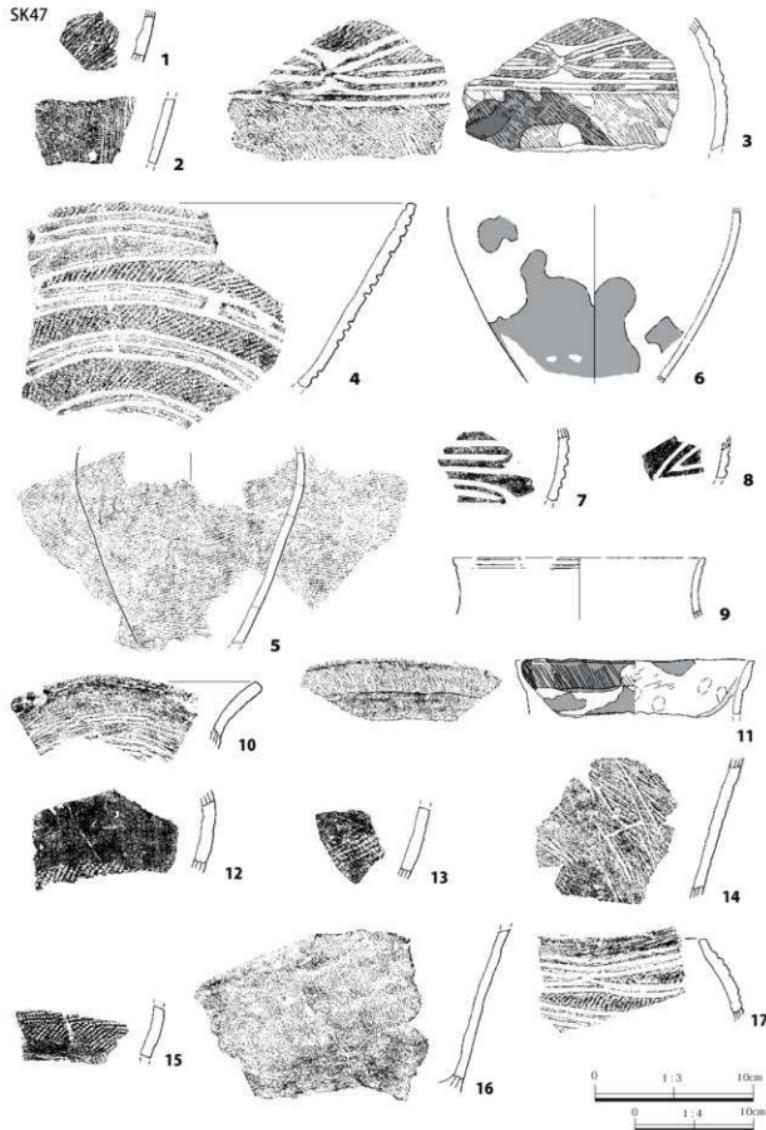
第13図 SK72・75・77・P07・SK81実測図(1/30)

SK75 (第13図)

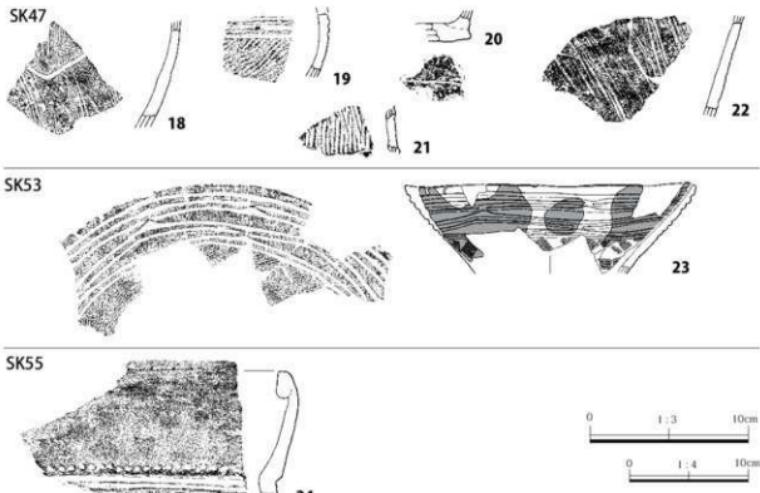
位置 4-13区N-11 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、人為堆積を示す。
平面形と規格 楕円形を呈する。規模は長軸138cm、短軸76cm、深さ30cm。 **主軸方位** N-58°-W
壁面 外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦。 **遺物** 繩文土器片、黒曜石の剥片が1点ずつ出土しているが、小破片のため図示しなかった。 **備考** 出土遺物から縄文時代と考えられる。

SK77 (第13図)

位置 4-13区N-10 **重複関係** P07と重複し、本遺構の方が新しい。 **遺存状態** 良好。 **覆土**



第14図 繩文・弥生時代土坑出土遺物実測図①(1/3・1/4)



第15図 繩文・弥生時代土坑出土遺物実測図②(1/3-1/4)

暗褐色土が基調で、人為堆積を示す。
平面形と規模 円形を呈する。規模は長軸 80cm、短軸 64cm、深さ 16cm。
主軸方位 N-41°-W **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦。
遺物 弥生土器片3点、黒曜石の剥片1点が出土しているが、小破片のため図示しなかった。
備考 出土遺物から弥生時代と考えられる。

SK81 (第13図)

位置 4-13区N-9 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 暗褐色土が基調で、人為堆積を示す。
平面形と規模 不整円形を呈する。規模は長軸 63cm、短軸 48cm、深さ 18cm。 **主軸方位** N-4°-E
壁面 外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦だが、一部に凹凸がある。
遺物 繩文土器片が20点出土しているが、小破片のため図示しなかった。
備考 出土遺物から縄文時代と考えられる。

(2) ピット (第13図/第5表)

縄文・弥生時代のピットはP 07の1基のみ確認された。弥生前期と考えられるSK77と重複し、SK77より古い。遺物は縄文土器片が2点出土しているが、小破片のため図示しなかった。P 07の平面形や規模などの情報は、第5表に記載した。

第5表 上野一遺跡ピット観察表①

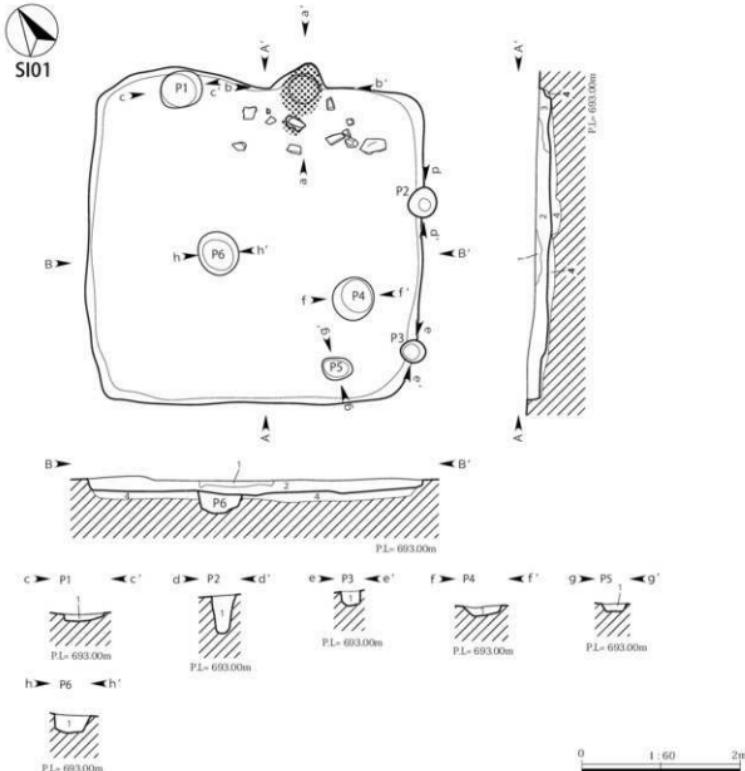
遺構名	位置	平面形	規模(cm)			覆土	備考
			長軸長	短軸長	深さ		
P07	2-94区D-9	円形	40	35	6	B	※ A: 黒褐色土 B: 暗褐色土

第3節 平安時代の遺構と遺物

(1) 壁穴住居跡

SI01 (第16~19図/第6・12・13表/P L 3・7)

位置 4-14区B-16 **重複関係** なし。**遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、人為堆積を示す。
平面形と規模 ほぼ方形を呈する。主軸 4.06 m、副軸 4.04 m、深さは 19cm、床面積は 15.5m²。
主

**SI01土層説明****A'A'B'B'**

1. 黒褐色土層: 粘性あり、しまりやや弱い。
2. 黒褐色土層: 粘性弱い、しまりやや弱い、YPk(φ0.2~0.5cm)少量含む。
3. 黄褐色土層: 粘性弱い、しまりやや弱い、燒土粒(φ0.1~0.5cm)含む。
4. 黄褐色土層: 粘性弱い、しまりあり、燒土粒(φ0.1~0.3cm)・炭化物(φ0.1~0.5cm)含む、ローム粒(φ0.1~0.3cm)・ロームブロック(φ1.0~3.0cm)少量含む。

S101P1土層説明**c-c'**

1. 黒褐色土層: 粘性弱い、しまりあり、燒土粒(φ0.1~0.5cm)・炭化物(φ0.1~0.3cm)含む。

S101P2土層説明**d-d'**

1. 黒褐色土層: 粘性弱い、しまりあり、YPk(φ0.1~0.5cm)少量含む。

S101P3土層説明**e-e'**

1. 黑褐色土層: 粘性弱い、しまりあり、YPk(φ0.1~0.5cm)少量含む。

S101P4土層説明**f-f'**

1. 黑褐色土層: 粘性弱い、しまりあり、YPk(φ0.1~0.5cm)少量含む、炭化物(φ0.1~0.3cm)微量含む。

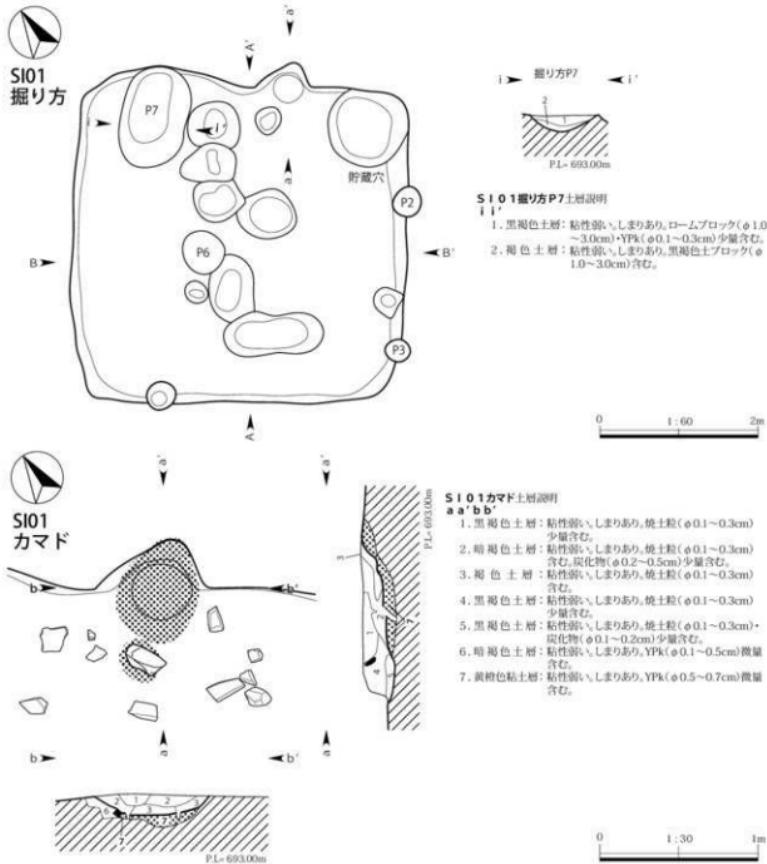
S101P5土層説明**g-g'**

1. 黑褐色土層: 粘性弱い、しまりあり、YPk(φ0.1~0.3cm)・炭化物(φ0.1~0.3cm)少量含む。

S101P6土層説明**h-h'**

1. 黑褐色土層: 粘性弱い、しまりあり、ローム粒(φ0.1~0.5cm)・YPk(φ0.1~0.3cm)少量含む。

第16図 SI01実測図(1/60)



第17図 SI01掘り方(1/60)・カマド実測図(1/30)

軸方位 N-32°-E 壁・壁溝

壁高は南北・西壁が13～15

cm、東壁が10cm。ともに外傾する。

壁溝は確認されなかった。床面

直床だが貼床や踏み締りは確認されなかった。概ね平坦。柱穴 P1～7まで確認され、床面でP1・4～6の4基、壁柱穴と見られるP2・3の2基、掘り方でP7を検出した。平面形は円形、楕円形を呈する。それぞれの規模は、第6表に記載する。カマド 北壁のやや東寄りに位置する。袖や天井部は残存せず、周辺にはカマドの支持材と見られる石材が散在していた。全長は104m、最大幅72cm。火床面は8cm掘り込まれ、焼土部分の厚さは7cmを有する。その他の施設 貯蔵穴が1基検出された。貯蔵穴は床面では検出でき

第6表 SI01 ピット計測表

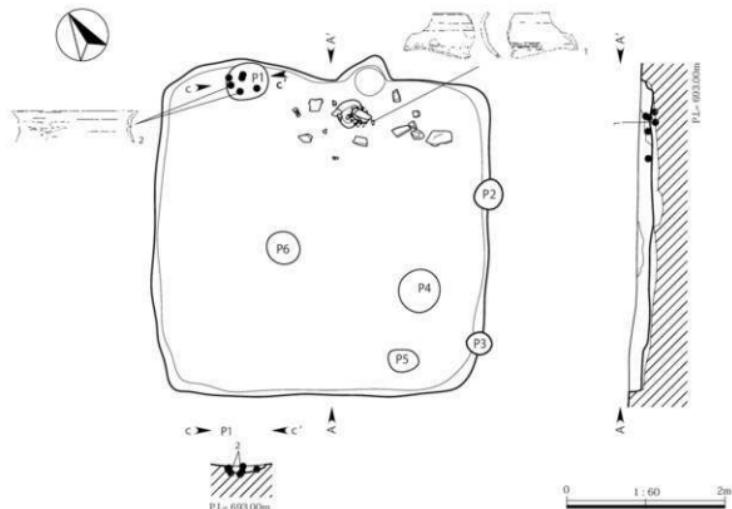
	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7
長軸長 (cm)	53	37	30	54	35	40	127
短軸長 (cm)	44	34	27	51	29	40	82
深さ (cm)	8	47	18	10	9	22	20

ず、掘り方で、カマド脇の北東隅で確認された。遺物は出土しておらず、平面形は円形、規模は長軸 101cm、短軸 99cm、深さ 8cm。カマドとの位置関係から貯蔵穴とした。**遺物検出状況** 全体に散在しているが、出土量は少ない。**遺物** 土師器の甕片が 16 点、須恵器の杯が 2 点出土し、コの字状口縁甕の土師器 3 点、須恵器の杯 1 点を図示した。**備考** 出土遺物から 9 世紀後半～10 世紀前半と考えられる。

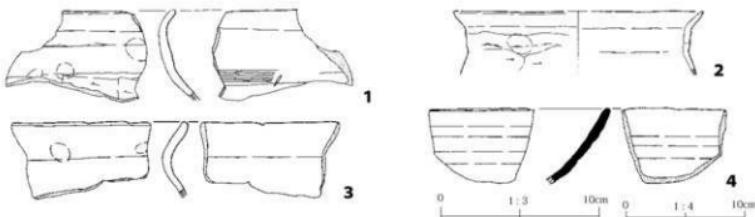
SI02(第 20 ~ 25 図／第 7・12・13 表／P.L. 4・7)

位置 4-13 区 Q-9 重複関係 SD07・SK51・54 と重複し、本遺構の方が古い。**遺存状態** 表土掘削の段階で南側を削平してしまい、南壁は現存していない。SD07 によって北壁・東壁の一部が壊されている。

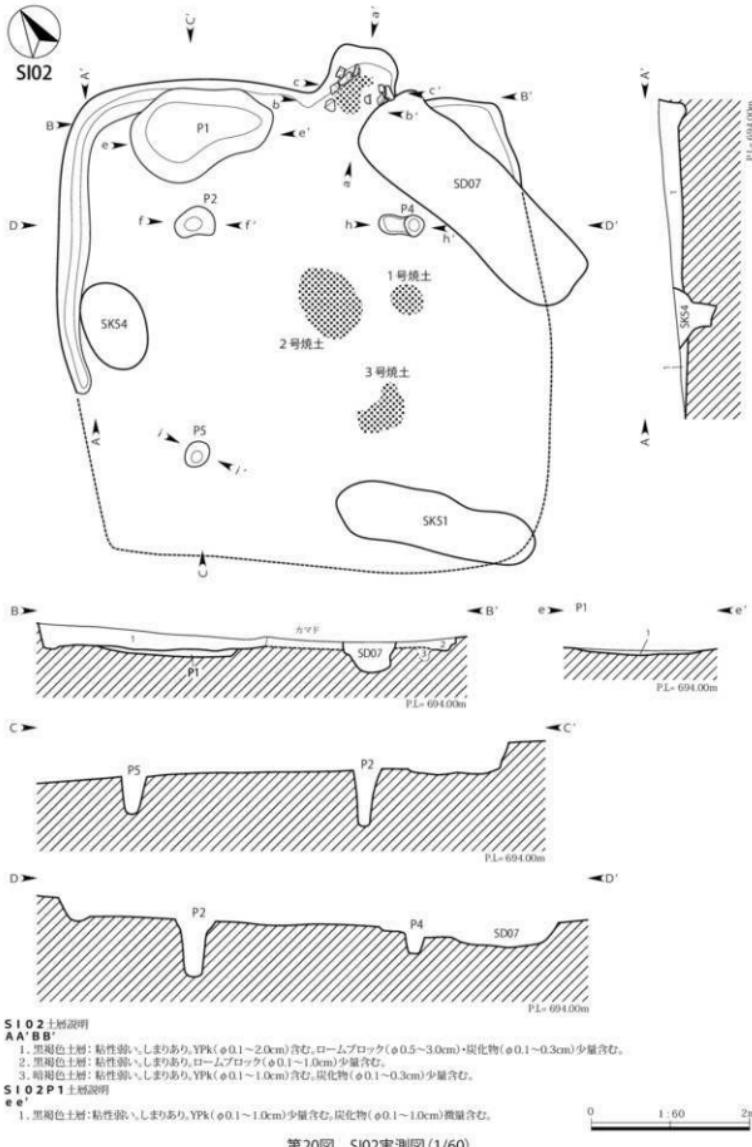
覆土 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。**平面形と規模** 南側はないが、方形を呈すると推定される。主軸 4.92 m 以上、副軸 5.83 m、深さは 24cm、床面積は推定 33.56m²。**主軸方位** N-31°-E **壁・壁溝** 壁高は西・北壁で 28 ~ 29cm、ともに外傾する。壁溝は北から西側で確認された。溝幅 25 ~ 40cm、床面からの深さは 6 ~ 10cm。**床面** 直床だが貼床や踏み織りは確認されなかった。概ね平坦である。**柱穴**



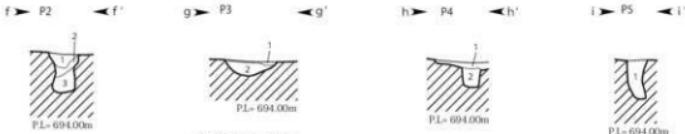
第18図 SI01遺物出土状況図(1/60)



第19図 SI01出土遺物実測図(1/3・1/4)



第20図 SI02実測図(1/60)



SI02 P2 土層説明

1. 黒褐色土層: 貧性弱い、しまりあり。YPk(φ0.1~1.0cm)少量含む。ロームブロック(φ0.5~1.0cm)微量含む。
2. 細粒褐色土層: 貧性弱い、しまりあり。YPk(φ0.3~1.0cm)含む。ロームブロック(φ0.5~1.0cm)少量含む。
3. にぶい黄褐色土層: 貧性弱い、しまりやや弱い。YPk(φ0.3~0.5cm)含む。

SI02 P3 土層説明

gg'

1. 黒褐色土層: 貧性弱い、しまりあり。YPk(φ0.1~0.5cm)・炭化物(φ0.1~0.5cm)少量含む。
2. 黑褐色土層: 貧性弱い、しまりあり。ロームブロック(φ0.5cm)含む。YPk(φ0.1~1.0cm)微量含む。

SI02 P4 土層説明

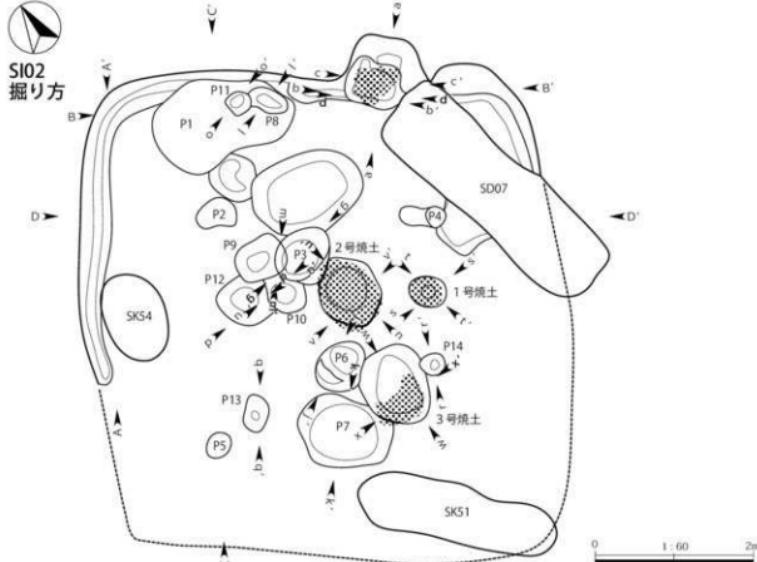
hh'

1. 黒褐色土層: 貧性弱い、しまりあり。YPk(φ0.2~1.0cm)・炭化物(φ0.1~0.5cm)少量含む。
2. 黑褐色土層: 貧性弱い、しまりあり。YPk(φ0.1~0.5cm)微量含む。

SI02 P5 土層説明

ii'

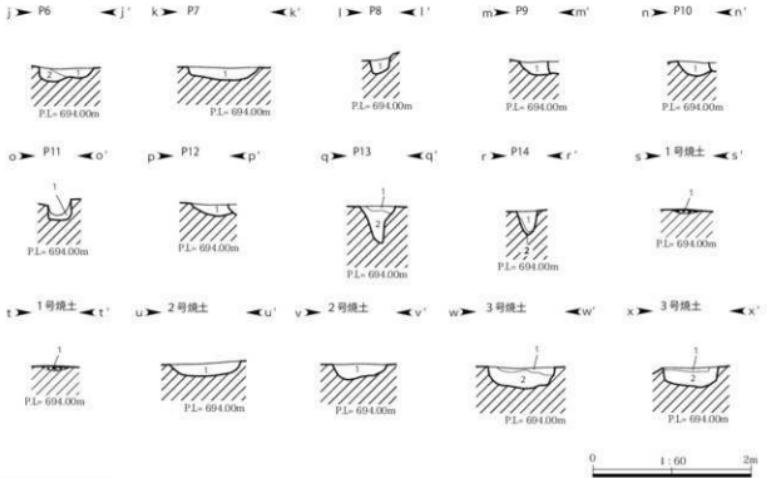
1. 黑褐色土層: 貧性弱い、しまりあり。ロームブロック(φ0.5~1.0cm)・YPk(φ0.1~0.5cm)少量含む。



第21図 SI02断面図・掘り方実測図(1/60)

第7表 SI02 ピット・焼土計測表

	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8	P9	P10
長軸長(cm)	180	50	78	26	34	67	103	62	65	(52)
短軸長(cm)	115	35	55	23	29	55	87	28	51	47
深さ(cm)	6	48	18	22	48	15	15	16	16	17
	P11	P12	P13	P14	1号焼土	2号焼土	3号焼土			
長軸長(cm)	29	(61)	43	32	41	(85)	103			
短軸長(cm)	28	64	31	26	37	79	85			
深さ(cm)	24	13	46	29	5	19	25			



S102P6 土層説明

j j'

1. 黒褐色土層：粘性弱い、しまりあり、ロームブロック(φ0.3~3.0cm)含む。Ypk(φ0.1~0.5cm)少量含む。
2. 黒褐色土層：粘性弱い、しまりあり、ロームブロック(φ0.2~0.5cm)・Ypk(φ0.1~0.5cm)少量含む。

S102P8 土層説明

k k'

1. 黒褐色土層：粘性弱い、しまりあり、ローム粒(φ0.1~0.5cm)含む。Ypk(φ0.1~0.3cm)・純土粒(φ0.1~0.5cm)・炭化物(φ0.1~0.3cm)少量含む。

S102P9 土層説明

m m'

1. 黒褐色土層：粘性弱い、しまりあり、ローム粒(φ0.2~0.5cm)・Ypk(φ0.2~0.5cm)少量含む。

S102P10 土層説明

n n'

1. 黒褐色土層：粘性弱い、しまりあり、ローム粒(φ0.1~0.3cm)・ロームブロック(φ0.5~3.0cm)・炭化物(φ0.1~0.3cm)微量含む。

S102P11 土層説明

o o'

1. 噴出土層：粘性弱い、しまりあり、ローム粒(φ0.2~0.5cm)・Ypk(φ0.1~0.5cm)微量含む。

S102P12 土層説明

p p'

1. 噴出土層：粘性弱い、しまりあり、ローム粒(φ0.2~0.5cm)・Ypk(φ0.1~0.5cm)・純土粒(φ0.1~0.5cm)・炭化物(φ0.1~0.5cm)微量含む。

S102P13 土層説明

q q'

1. 黒褐色土層：粘性弱い、しまりあり、ロームブロック(φ0.1~0.5cm)含む。Ypk(φ0.1~0.3cm)少量含む。
2. 黒褐色土層：粘性弱い、しまりあり、Ypk(φ0.1~0.5cm)少量含む。

S102P14 土層説明

r r'

1. 黒褐色土層：粘性弱い、しまりあり、ロームブロック(φ0.3~2.0cm)含む。Ypk(φ0.1~0.5cm)少量含む。
2. 黄褐色土層：粘性弱い、しまりあり、Ypk(φ0.1~0.3cm)少量含む。

S102-1号地盤土層説明

s s' t t'

1. 明赤褐色土層：粘性弱い、しまりあり、Ypk(φ0.1~0.3cm)・炭化物(φ0.1~0.5cm)含む。

S102-2号地盤土層説明

u u' v v'

1. 黑褐色土層：粘性弱い、しまりあり、純土粒(φ0.1~0.5cm)含む。ロームブロック(φ0.5~2.0cm)・Ypk(φ0.1~0.3cm)少量含む。炭化物(φ0.1~0.3cm)微量含む。

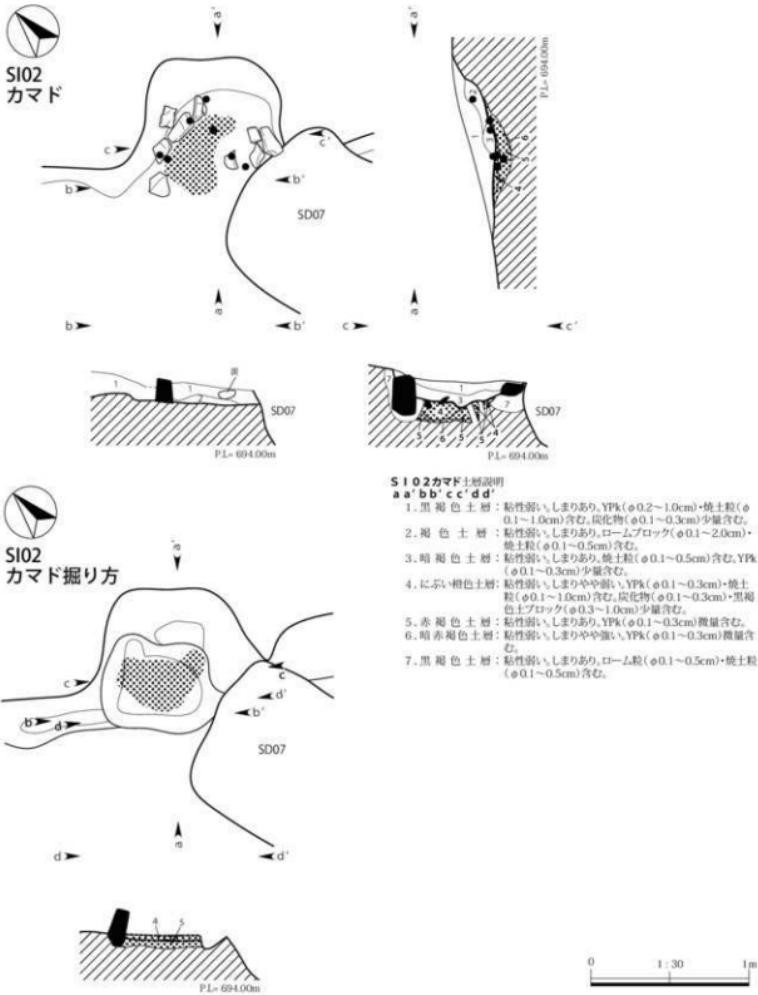
S102-3号地盤土層説明

w w' x x'

1. 黄褐色土層：粘性弱い、しまりあり、純土粒(φ0.1~0.5cm)含む。Ypk(φ0.1~0.3cm)少量含む。

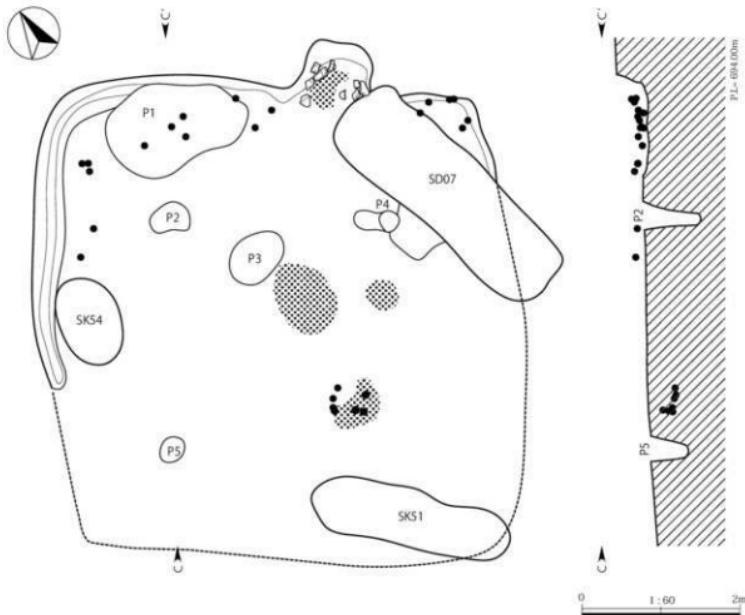
2. 黄褐色土層：粘性弱い、しまりあり、純土粒(φ0.1~1.0cm)多量含む。Ypk(φ0.1~0.3cm)少量含む。

第22図 S102掘り方断面図(1/60)

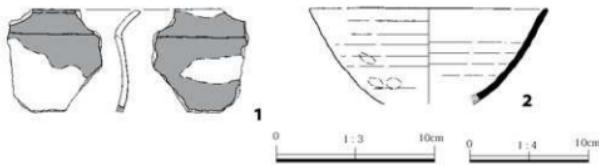


第23図 SI02カマド・カマド掘り方実測図(1/30)

P 1 ~ 14まで確認され、P 3・6~14は掘り方で確認された。P 2・4・5は住居中央の北西・北東・南西に均等に配置されており、主柱穴と考えられる。平面形は円形、梢円形を呈する。それぞれの規模は第7表に記載する。 **カマド** 北壁の東寄りに位置する。天井部は残存していない。ロームを含む黒褐色土で外形を造り、支持材と見られる切石が散在していた。全長は 117cm、最大幅 99cm。火床面は 4cm 挖り込まれ、焼

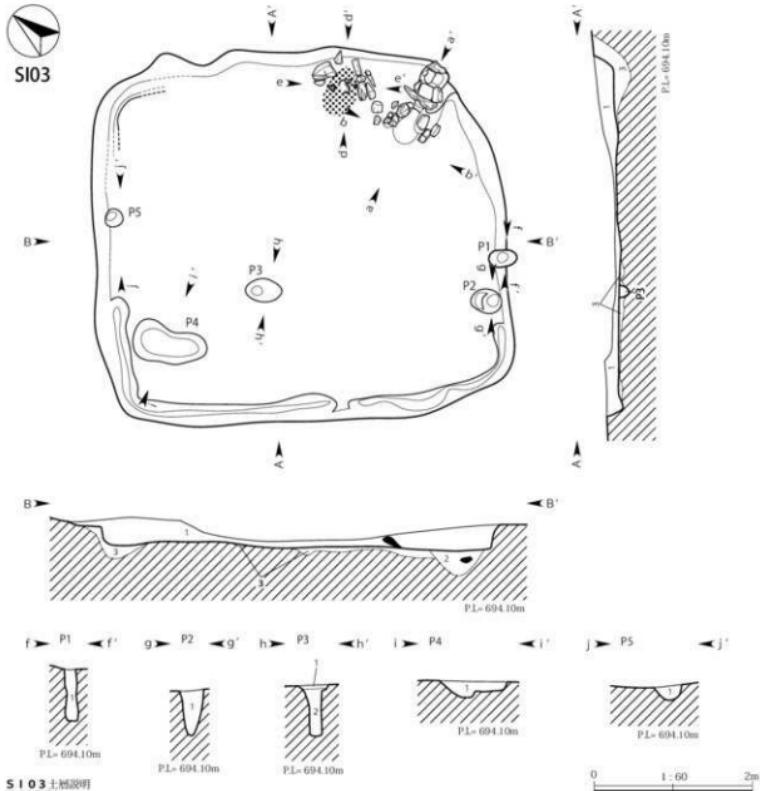


第24図 S102遺物出土状況図(1/60)



第25図 S102出土遺物実測図(1/3・1/4)

土部分の厚さは12cmを有する。**その他の施設** 1号～3号焼土を検出した。1号焼土は床面が熱してあり、鍛冶関連の施設を伴う可能性が考えられたが、採取した焼土からは鍛造剝片や粒状滓は確認できなかった。2・3号焼土は焼土を多量含む黒褐色、褐色土が堆積しており、掘り方の一部と考えられる。**遺物検出状況** 全体に散在し、小破片が多い。住居を壊しているSD07内からは住居に伴うと見られる遺物が出土した。**遺物** 土器の甕117点、杯8点、須恵器の甕7点、杯3点が出土し、土器の小型甕1点、須恵器の杯1点を図示した。**備考** 主柱穴は3基検出されているが、南東部からは検出されていない。南側は削平してしまったため、明確な重複関係は不明だが、南東側に位置するSK51によって主柱穴が削平されている可能性がある。出土遺物から9世紀後半～10世紀前半と考えられる。



**SI03 土層説明
AA'-BB'**

1. 黒褐色土層：粘性弱い、しまりあり。
2. 黒褐色土層：粘性弱い、しまりあり、ロームブロック（ $\phi 0.3\sim1.0cm$ ）少量含む。YPk（ $\phi 0.2\sim1.0cm$ ）含む。
3. 黒褐色土層：粘性弱い、しまりあり、YPk（ $\phi 0.1\sim1.0cm$ ）含む、炭化物（ $\phi 0.1\sim0.3cm$ ）少量含む。

**SI03P1 土層説明
ff'**

1. 黒褐色土層：粘性弱い、しまりあり、YPk（ $\phi 0.1\sim0.5cm$ ）少量含む。

**SI03P2 土層説明
gg'**

1. 黒褐色土層：粘性弱い、しまりあり、YPk（ $\phi 0.1\sim0.5cm$ ）・炭化物（ $\phi 0.1\sim0.3cm$ ）少量含む。

**SI03P3 土層説明
hh'**

1. 黑褐色土層：粘性弱い、しまりあり、YPk（ $\phi 0.1\sim1.0cm$ ）少量含む。
2. 黑褐色土層：粘性弱い、しまりあり、YPk（ $\phi 0.1\sim0.5cm$ ）・炭化物（ $\phi 0.1\sim0.3cm$ ）少量含む。

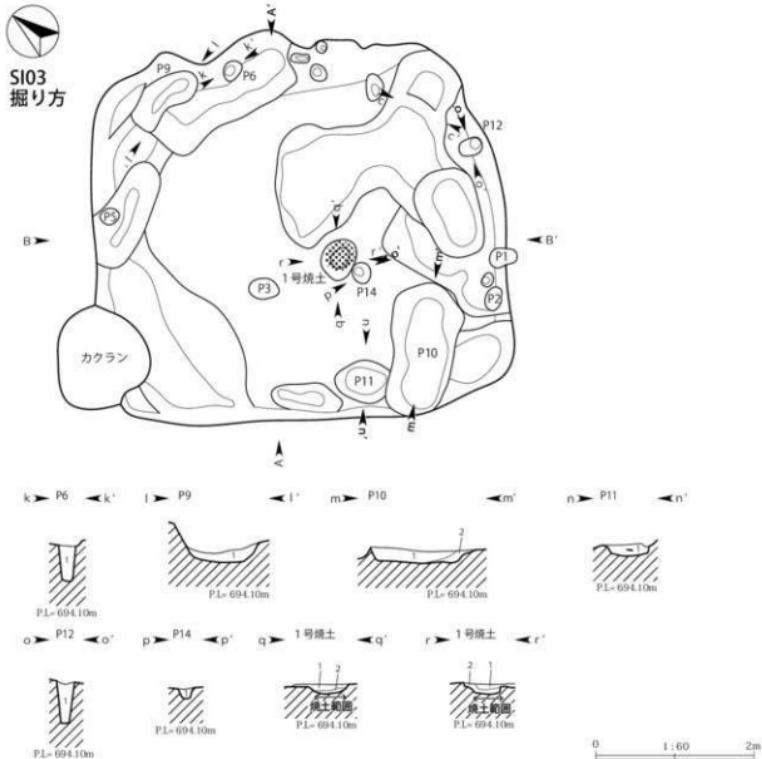
**SI03P4 土層説明
ii'**

1. 黑褐色土層：粘性弱い、しまりあり、YPk（ $\phi 0.1\sim1.0cm$ ）・炭化物（ $\phi 0.1\sim1.0cm$ ）含む。

**SI03P5 土層説明
jj'**

1. 黑褐色土層：粘性弱い、しまりあり、YPk（ $\phi 0.1\sim1.0cm$ ）・炭化物（ $\phi 0.1\sim0.5cm$ ）含む。

第26図 SI03実測図(1/60)

**SI03 P6 土層説明****k' k'**

1. 黒褐色土層: 粘性弱い、しまりあり、YPk(φ0.1~0.5cm)少量含む。

SI03 P9 土層説明**l' l'**

1. 黒褐色土層: 粘性弱い、しまりあり、YPk(φ0.1~0.5cm)少量含む。

SI03 P10 土層説明**m' m'**

1. 黒色土層: 粘性弱い、しまりあり、YPk(φ0.1~0.5cm)含む、炭化物(φ0.1~0.3cm)少量含む。
2. 黑褐色土層: 粘性弱い、しまりあり、YPk(φ0.1~0.5cm)含む、粘土粒(φ0.1~0.3cm)・炭化物(φ0.1~0.3cm)少量含む。

SI03 P11 土層説明**n' n'**

1. に赤い黄褐色土層: 粘性弱い、しまりあり、ローム粒(φ0.1~0.5cm)・YPk(φ0.1~0.3cm)含む。

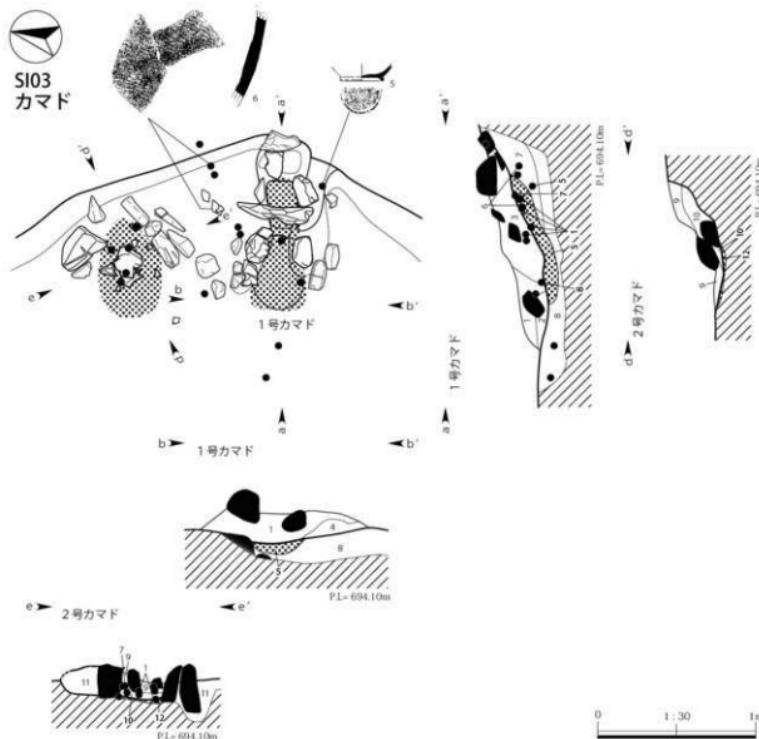
SI03 P12 土層説明**o' o'**

1. 黑褐色土層: 粘性弱い、しまりあり、ローム粒(φ0.1~0.5cm)・YPk(φ0.1~0.3cm)含む。

SI03 P14 1号焼土 土層説明**p' p'**

1. 黑褐色土層: 粘性弱い、しまりあり、YPk(φ0.1~0.3cm)少量含む、炭化物(φ0.1~0.3cm)微量含む。
2. 黑褐色土層: 粘性弱い、しまりあり、YPk(φ0.1~0.5cm)含む、ロームブロック(φ0.1~0.5cm)・焼土粒(φ0.2~1.0cm)少量含む。

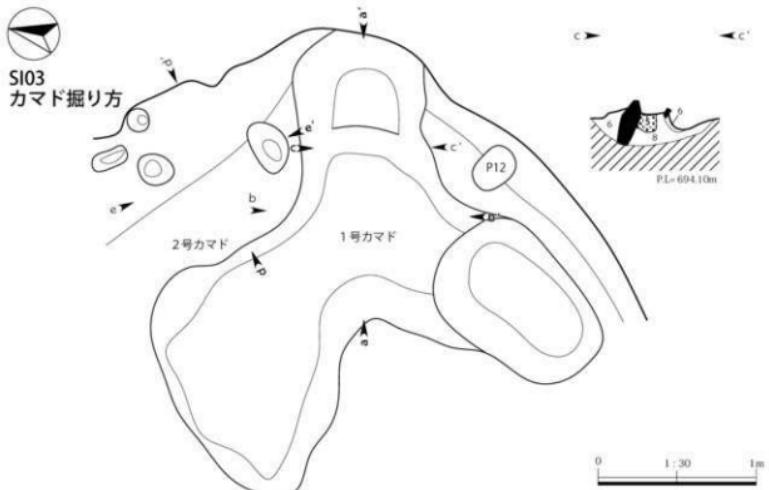
第27図 SI03掘り方実測図(1/60)



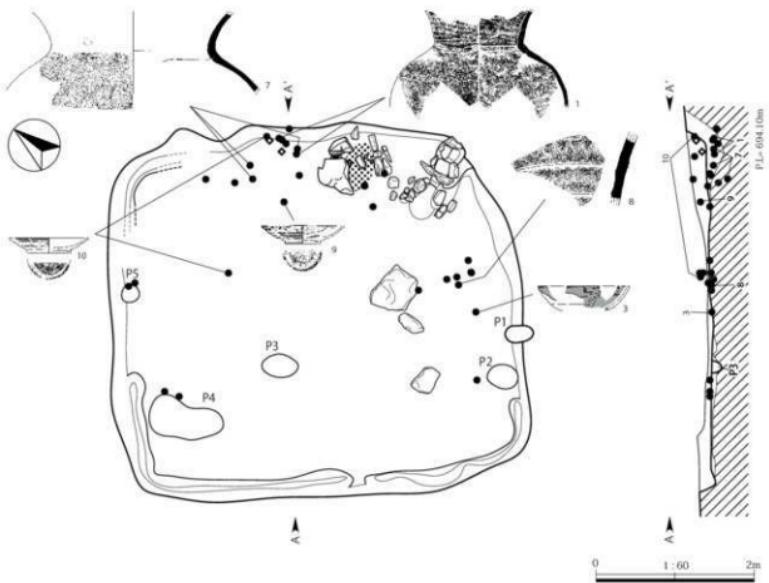
第28図 S103カマド実測図(1/30)

S103 (第 26 ~ 31 図 / 第 8 · 12 · 13 表 / P L 3 · 4 · 8)

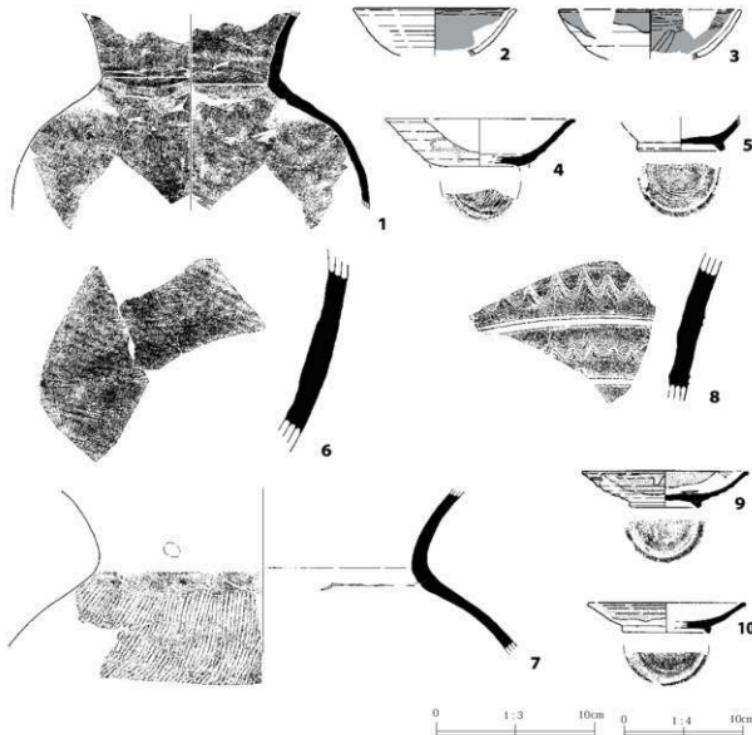
位置 4-13区Q-8 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、人為堆積を示す。 **平面形と規模** 方形を呈する。主軸 4.7 m、副軸 5.19 m、深さは 28cm、床面積は 20.16m²。 **主軸方位** N - 50° - E **壁・壁溝** 壁高は、南北・西壁で 17 ~ 21cm、東壁で 27cm、ともに外傾する。壁溝は溝幅 17 ~ 22cm、床面からの深さは 5 ~ 12cm。 **床面** 直床で中央部に踏み締りあり。概ね平坦。 **柱穴** 床面で P 1 ~ 5 まで確認され、P 6 ~ P14 は掘り方で確認された。P 2 · 3 · 6 · 12 は掘り込みが深く、均等に配置されており、主柱穴と考えられる。P 7 · 8 · 13 は掘り方の一部と考え欠番とした。それぞれの規模



第29図 SiO₃カマド掘り方実測図(1/30)



第30図 SI03遺物出土状況図(1/60)



第31図 S103出土遺物実測図(1/3・1/4)

第8表 S103 ピット・焼土計測表

は第8表に記載する。 カマド カマドは2基検出された。1号カマドは北東隅に位置する。全長は135cm、最大幅31cm。火床面は6cm掘り込まれ、焼土部分の厚さは9cmを有する。ロームを含む黒色土～黒褐色土で外形を造り、支持材として切石・自然石が使用されていた。2号カマドは北壁

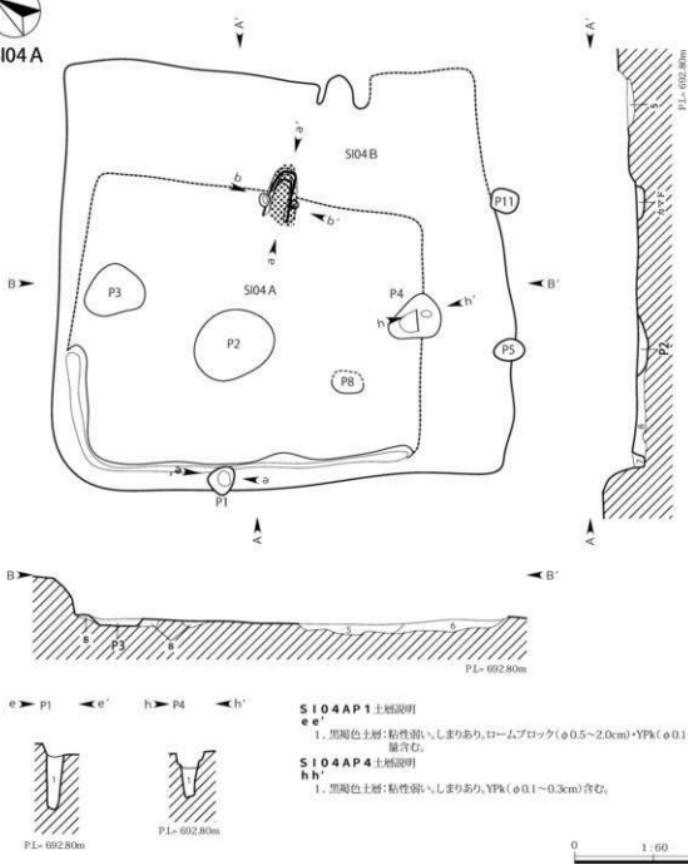
中央やや東寄りに位置する。全長は135cm、最大幅31cm。火床面は2cm掘り込まれ、焼土部分の厚さは1cmを有する。周辺には切石・自然石が散在し、支持材として使用されていた切石が残存していた。 その他の施設 床面中央部に1号焼土が検出された。鍛冶関連の施設を伴う可能性が考えられたが、採取した焼土からは鍛造剥片や粒状滓は確認できなかった。

遺物検出状況 全体に散在し、小破片が多い。
遺物 土器器の甕23点、杯10点、土師質土器2点、須恵器の甕29点、杯15点、灰釉陶器の皿2点、鉄滓1点、刀子片1点が出土し、土師質土器の杯2点、須恵器の甕4点、杯2点、灰釉陶器の皿2点を図示した。須恵器の杯では「中」

	P1	P2	P3	P4	P5	P6
長軸長(cm)	35	37	43	93	22	25
短軸長(cm)	20	29	29	51	21	20
深さ(cm)	64	55	64	19	18	43
	P9	P10	P11	P12	P14	1号焼土
長軸長(cm)	96	(169)	(65)	30	27	51
短軸長(cm)	36	90	55	21	25	43
深さ(cm)	16	16	14	50	11	10



SI04 A

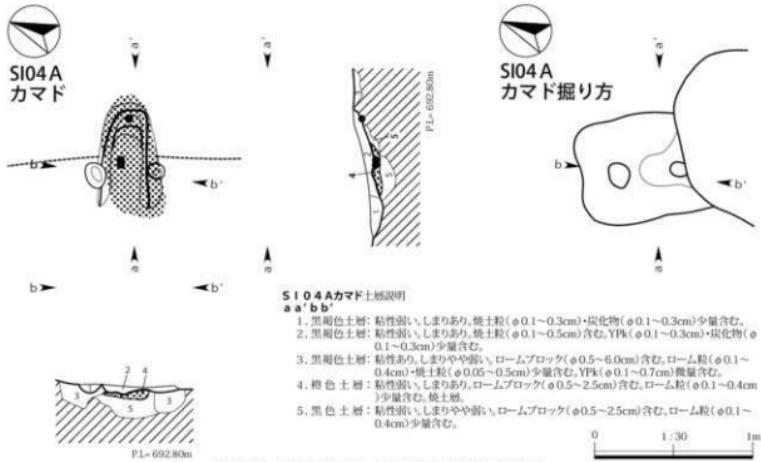


第32図 SI04A実測図(1/60)

と墨書きされた土器が1点出土している。 **備考** 出土遺物から9世紀後半～10世紀前半と考えられる。

SI04A (第32・33・36～38図/第9・12表/P L 5・8)

位置 4-14区A-11 **重複関係** SI04Bと重複し、本遺構の方が古い。 **遺存状態** 上部が削平されている。 **覆土** 黒褐色土が基調で、人為堆積を示す。 **平面形と規模** 方形を呈する。主軸推定4.0m、副軸推定4.66m、深さは40cm、床面積は推定15.04m²。 **主軸方位** N-54°-E **壁・壁溝** 壁高は北壁53cm、西壁37cm。ともに外傾する。壁溝は西から南側で確認された。 **床面** 直床だが貼床や踏み締りは確認されなかった。概ね平坦。 **柱穴** P1・P4が確認された。P1は西壁の中央、P4は南壁の中央で検出



第33図 SI04Aカマド・カマド掘り方実測図(1/30)

され、壁柱穴の可能性がある。それぞれの規模は第9表に記載する。 **カマド** 東壁中央に位置する。天井部、袖は残っておらず全長は 95cm、最大幅 41cm。火床面は 8cm 挖り込まれ、焼土部分の厚さは 5cm を有する。 **その他の施設** なし。 **遺物検出状況** なし。 **遺物** なし。 **備考** SI04B との関連性から 9世紀後半～10世紀前半と考えられる。

SI04B (第34～38図／第10・12・13表／PL 5・8)

位置 4-14 区 A-11 **重複関係** SI04A、SK80 と重複し、本遺構の方が新しい。 **遺存状態** 北東側は削平され、壁は現存していない。 **覆土** 黒褐色土が基調で、人為堆積を示す。 **平面形と規模** 方形を呈する。主軸 5.43m、副軸 5.77m、深さ 26cm、床面積は 26.39m²。 **主軸方位** N-57°-E **壁・壁溝** 壁高は東壁 4cm、西壁 40cm、南壁 37cm、北壁 10cm。ともに外傾する。壁溝は確認されなかった。 **床面** 貼床で中央部に踏み締りあり。概ね平坦。**柱穴** P 2・3・5・6・8～11 の 8 基が確認された。P 5・9～11 は掘り込みが深く、均等に配置されており、主柱穴と考えられる。P 2・P 3 は楕円形を呈し、掘り込みも浅く、床下土坑と考えられる。P 6 は斜めに掘り込まれ、主柱穴 P 10 の抜き取り穴と考えられる。P 8 は平石が埋設されており、礎石と考えられたが、別の平石は検出されず、他の目的で設置したと見られる。P 7 は掘り方の一部と考え、欠番とした。それぞれの規模は第10表に記載する。 **カマド** 東壁中央やや南寄りに位置する。ロームを含む黒褐色土で外形を造り、支持材として使用された切石・自然石が散在していた。全長は 135cm、最大幅 53cm。火床面は 8cm 挖り込まれ、焼土部分の厚さは 1cm を有する。 **その他の施設** なし。 **遺物検出状況** 全体に散在し、小破片が多い。 **遺物** 土師器の甕 242 点、杯 4 点、土師質土器の杯 1 点、須恵器の甕 16 点、杯 5 点が出土し、土師器の甕 3 点、土師質土器の杯 1 点、須恵器の杯 3 点を図示した。須恵器の杯では「地」

第9表 SI04A ピット計測表

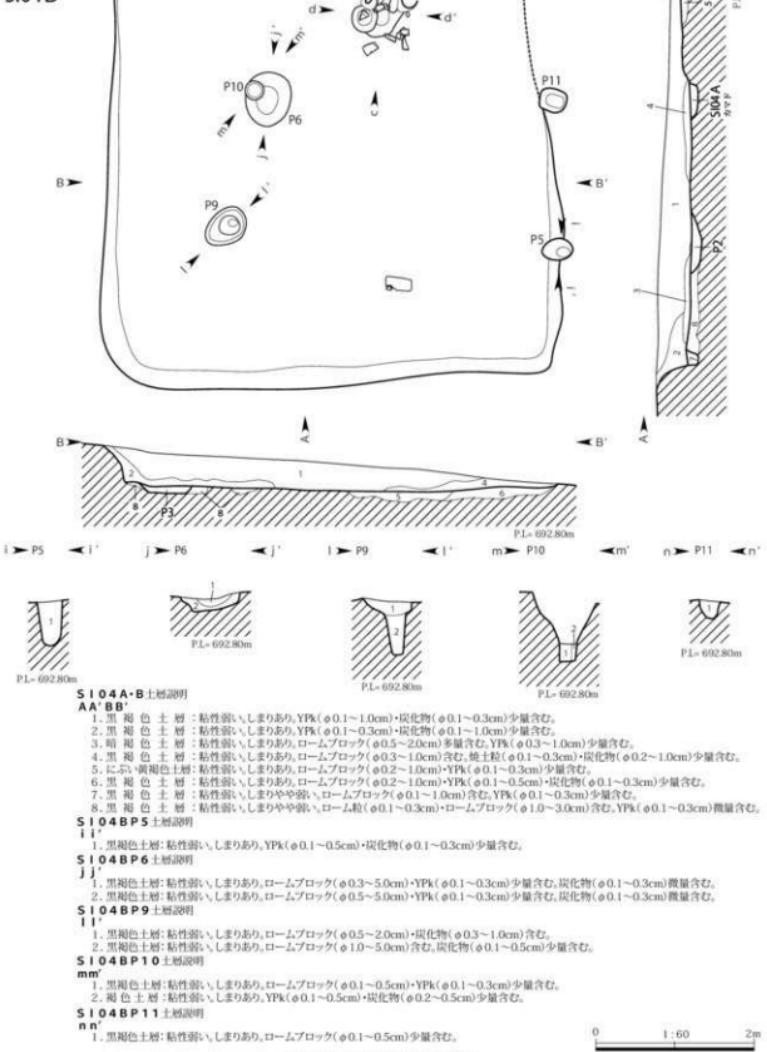
	P1	P4
長軸長 (cm)	36	69
短軸長 (cm)	32	54
深さ (cm)	65	35

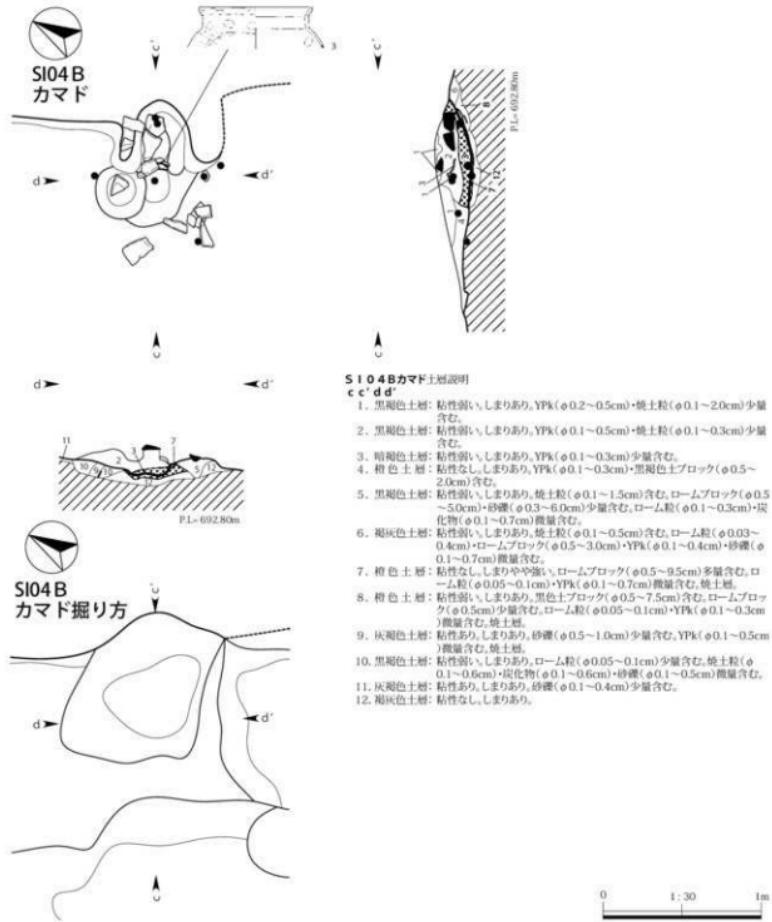
第10表 SI04B ピット計測表

	P2	P3	P5	P6	P8	P9	P10	P11
長軸長 (cm)	103	74	39	68	41	57	23	36
短軸長 (cm)	83	61	27	56	(11)	32	23	30
深さ (cm)	23	16	55	16	9	65	74	21



SI04B





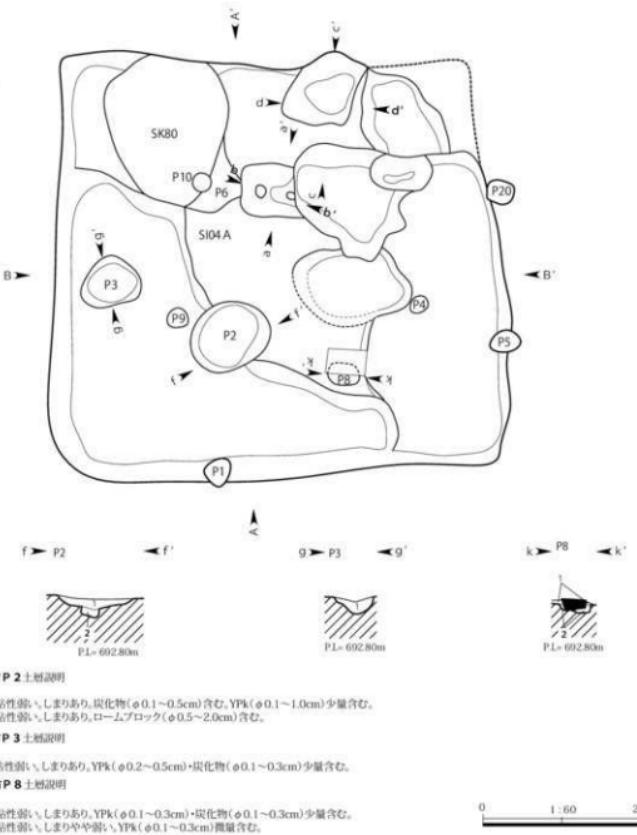
第35図 SI04Bカマド・カマド掘り方実測図(1/30)

と墨書きされた土器が1点出土している。 **備考** SI04Aとは南・西壁を共有しており、別の住居ではなく、古いSI04Aを拡張した可能性が高い。出土遺物から9世紀後半～10世紀前半と考えられる。

(2) 陥し穴

陥し穴は上面形が楕円形、下面形が長方形を呈する形態を持つものについては、平安時代に帰属すると考えられる。

SI04A・B
掘り方



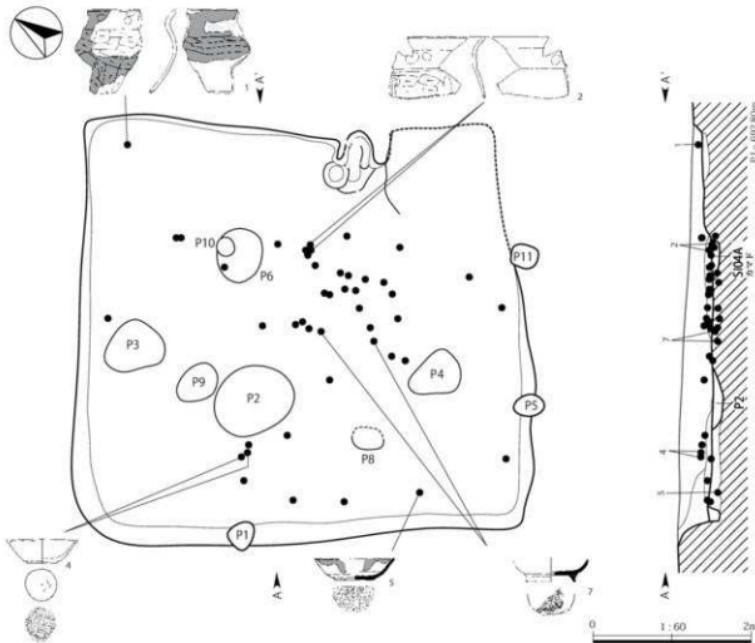
第36図 SI04A・B掘り方実測図(1/60)

SK01 (第39図)

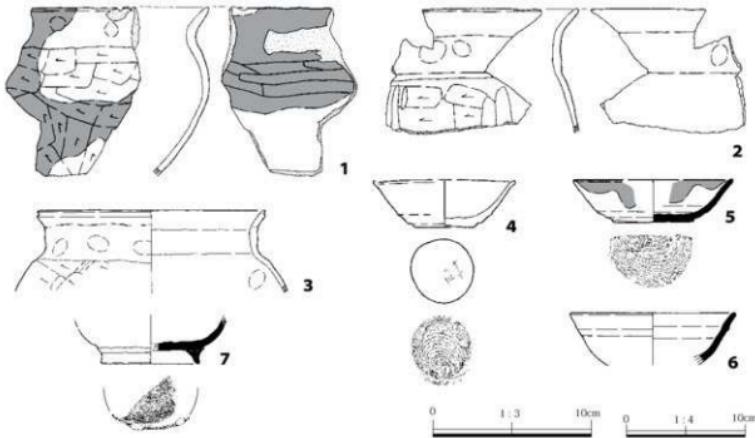
位置 4-24区F-5 **重複関係** SD01と重複し、本遺構の方が古い。 **遺存状態** SD01によって上部が一部削平されているが、概ね良好。 **覆土** 黒褐色土が基準で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 上面形が橢円形、下面形が長方形を呈する。規模は長軸184cm、短軸121cm、深さ125cm。 **主軸方位** N-60°-E **壁面** 下位は外傾して立ち上がり、上位は大きく外傾する。 **底面** 概ね平坦。 **遺物** なし。 **備考** なし。

SK04 (第39図)

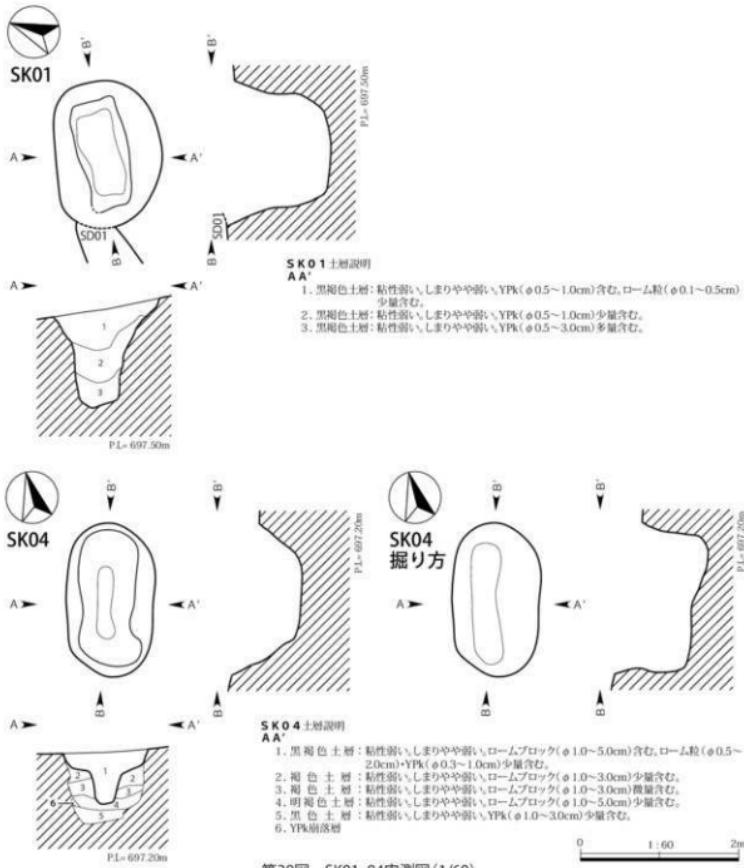
位置 4-24区F-4 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 上層に黒褐色土、貼壁の中層に褐色土、下層に黒褐色土が堆積する。人為堆積を示す。 **平面形と規模** 上面形が橢円形、下面形が長方形を呈



第37図 SI04遺物出土状況図(1/60)



第38図 SI04出土遺物実測図(1/3・1/4)



第39図 SK01・04実測図(1/60)

する。規模は長軸 195cm、短軸 108cm、深さ 90cm。**主軸方位** N-14°-E **壁面** 下位は外傾し、上位は大きく外傾する。**底面** 概ね平坦。**遺物** なし。**備考** 壁際や下位で貼壁が認められる。

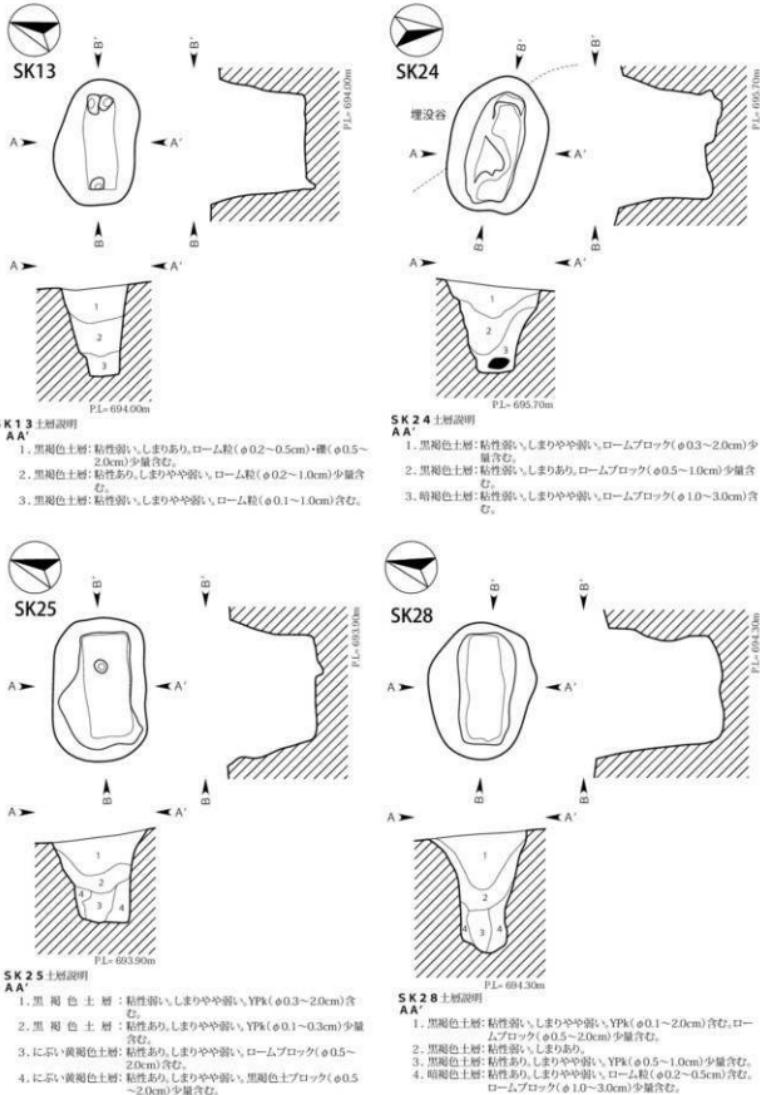
SK13 (第40図)

位置 4-14区C-19 **重複関係** なし。**遺存状態** 良好。**覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。

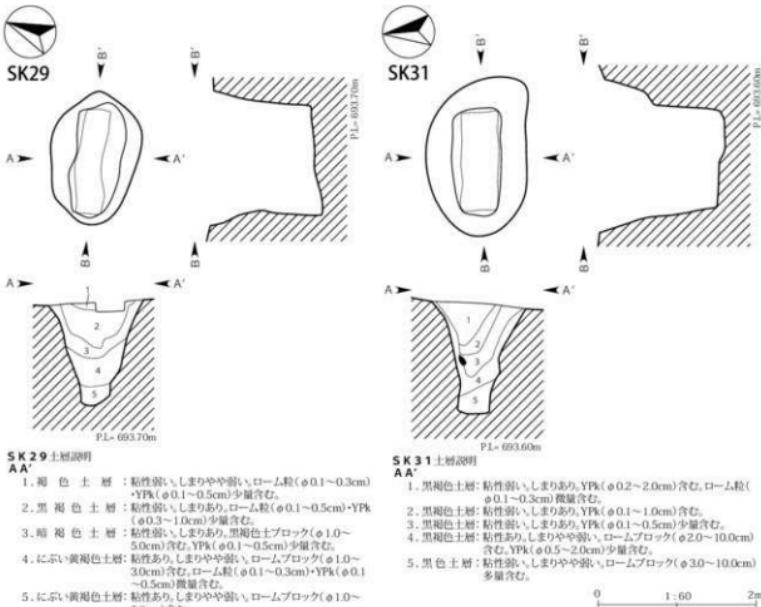
平面形と規模 上面形が楕円形、下面形が長方形を呈する。規模は長軸 158cm、短軸 95cm、深さ 110cm。

主軸方位 N-71°-E **壁面** 下位から上位にかけて外傾する。**底面** 端部に凹凸あり。**遺物** なし。

備考 なし。



第40図 SK13・24・25・28実測図(1/60)



第41図 SK29・31実測図(1/60)

SK24 (第40図)

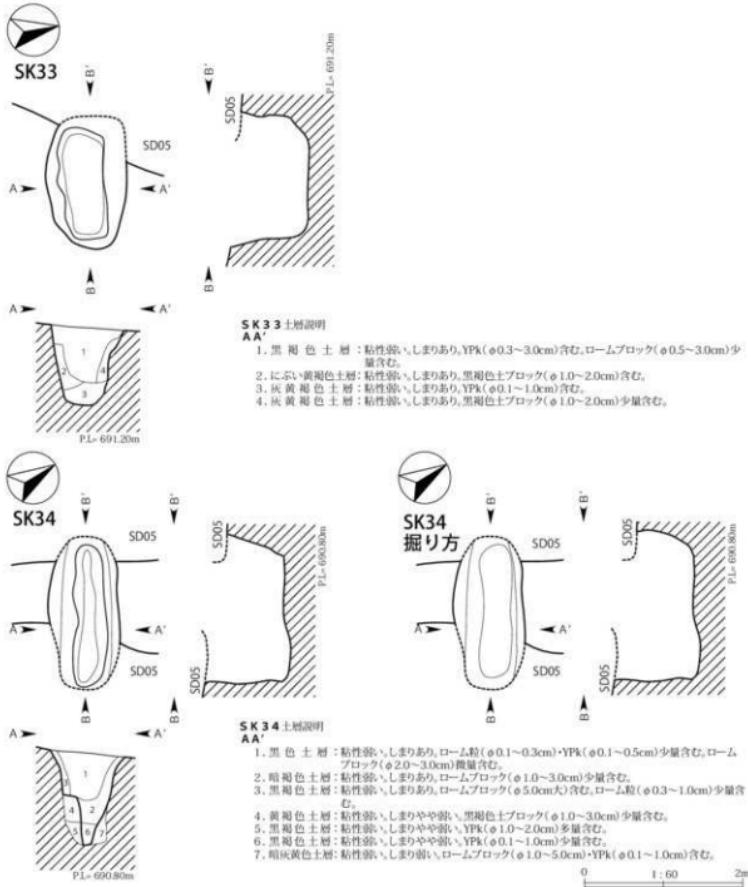
位置 4-24 区D-2 重複関係 なし。 遺存状態 良好。 覆土 黒褐色土が基調で、下層に暗褐色土が堆積する。人為堆積を示す。 平面形と規模 上面形が楕円形、下面形が長方形を呈する。規模は長軸174cm、短軸102cm、深さ110cm。 主軸方位 N-73°-W 壁面 下位は外傾し、上位は大きく外傾する。 底面 部分的に凹凸がある。 遺物 なし。 備考 なし。

SK25 (第40図)

位置 4-14 区D-19 重複関係 なし。 遺存状態 良好。 覆土 黒褐色土が基調で、下層ににぶい黄褐色土が堆積する。自然堆積を示す。 平面形と規模 上面形が楕円形、下面形が長方形を呈する。規模は長軸180cm、短軸118cm、深さ110cm。 主軸方位 N-70°-E 壁面 下位は外傾し、上位は大きく外傾する。 底面 概ね平坦で、坑底ピットと見られる窪みが確認出来る。 遺物 なし。 備考 なし。

SK28 (第40図)

位置 4-14 区D-20 重複関係 なし。 遺存状態 良好。 覆土 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 平面形と規模 上面形が楕円形、下面形が長方形を呈する。規模は長軸170cm、短軸124cm、深さ140cm。 主軸方位 N-70°-E 壁面 下位は外傾し、上位は大きく外傾する。 底面 概ね平坦。 遺物 なし。 備考 なし。



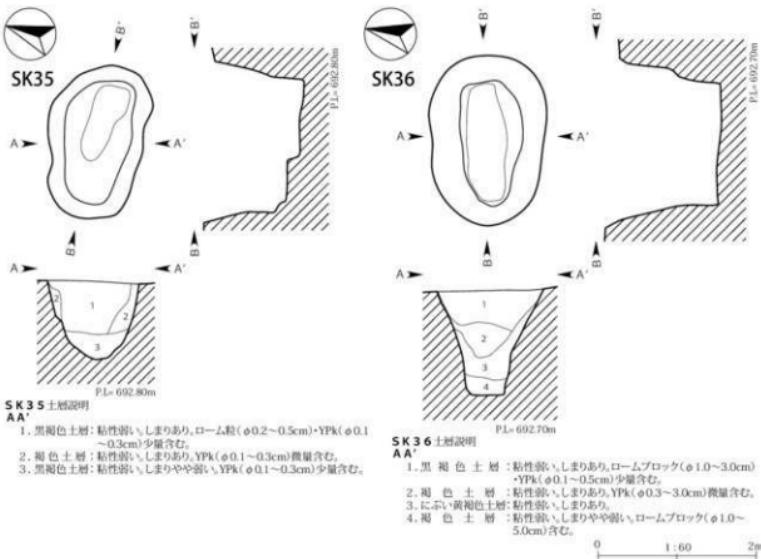
第42図 SK33・34実測図(1/60)

SK29 (第41図/P L 5)

位置 4-14区G-4 重複関係 なし。 遺存状態 良好。 覆土 黒褐色土が基調で、下層ににぶい黄褐色土が堆積する。自然堆積を示す。 平面形と規模 上面形が楕円形、下面形が長方形を呈する。規模は長軸168cm、短軸104cm、深さ130cm。 主軸方位 N-72°-E 壁面 下位は外傾し、上位は大きく外傾する。 底面 横ね平坦。 遺物 なし。 備考 なし。

SK31 (第41図)

位置 4-14区E-7 重複関係 なし。 遺存状態 良好。 覆土 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。



第43図 SK35・36実測図(1/60)

平面形と規模 上面形が梢円形、下面形が長方形を呈する。規模は長軸 197cm、短軸 127cm、深さ 140cm。
主軸方位 N - 86° - W **壁面** 下位は外傾し、上位は大きく外傾する。
底面 概ね平坦。
遺物 なし。
備考 なし。

SK33 (第42図)

位置 4-14区E-13 **重複関係** SD05と重複し、本遺構の方が古い。
遺存状態 上部をSD05によつて削平されているが、概ね良好。
覆土 黒褐色土が基調で、下層に灰黄褐色土が堆積する。自然堆積を示す。

平面形と規模 上面形が梢円形、下面形が長方形を呈する。規模は長軸推定 168cm、短軸 102cm、深さ 95cm。
主軸方位 N - 81° - W **壁面** 下位は外傾し、上位は大きく外傾する。
底面 概ね平坦。
遺物 なし。
備考 なし。

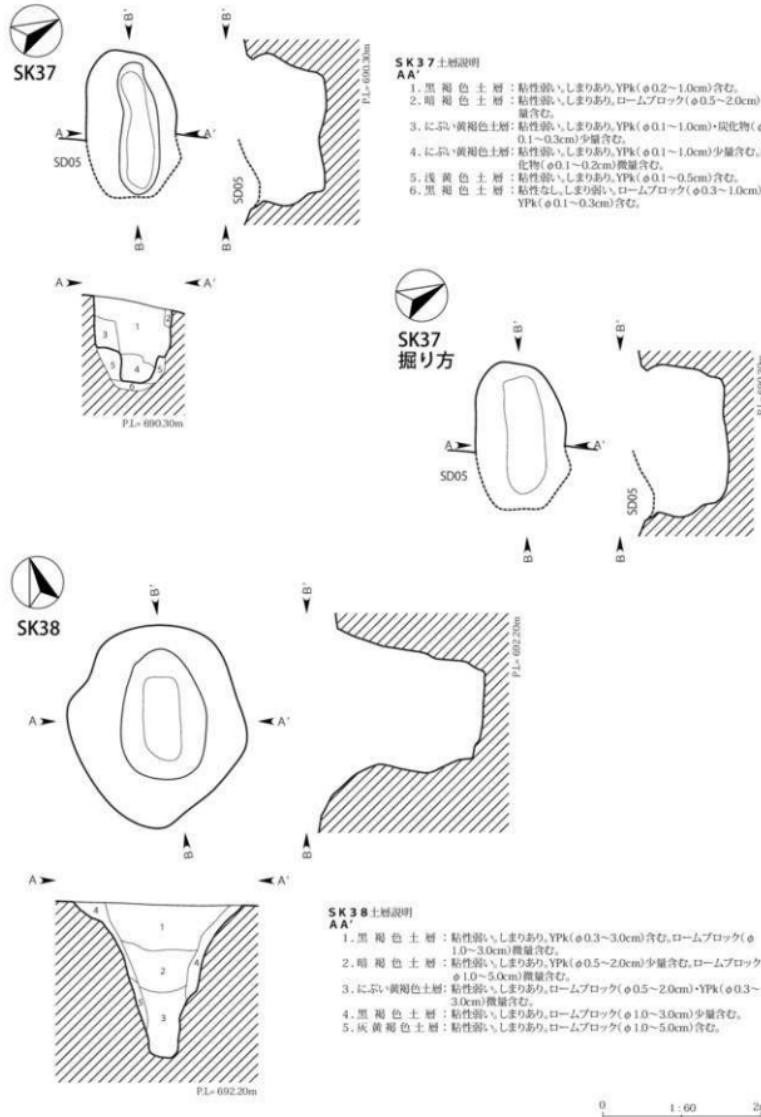
SK34 (第42図)

位置 4-14区E-12 **重複関係** SD05と重複し、本遺構の方が古い。
遺存状態 上部をSD05によつて削平されているが、概ね良好。
覆土 黒褐色土が基調で、下層に黒褐色土が堆積する。自然堆積を示す。

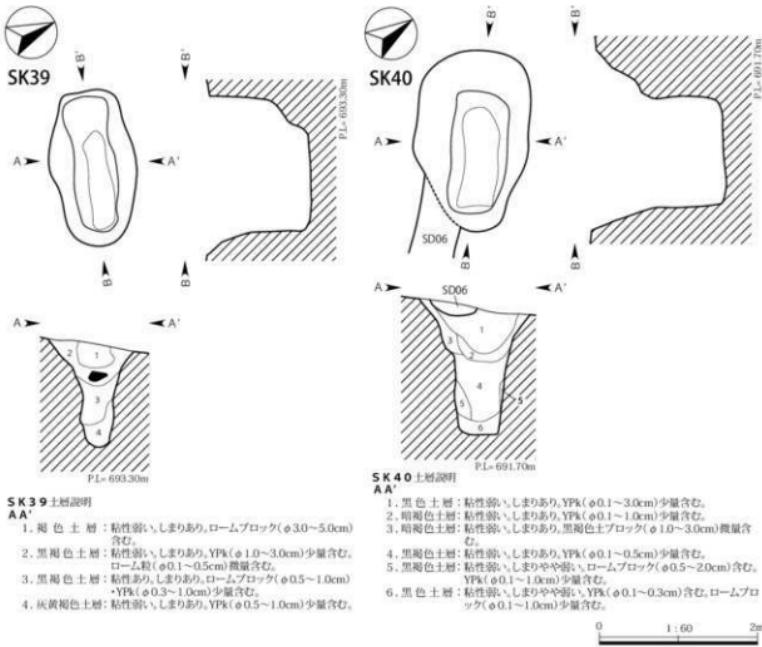
平面形と規模 上面形が梢円形、下面形が長梢円形を呈する。規模は長軸推定 194cm、短軸 90cm、深さ 115cm。
主軸方位 N - 59° - W **壁面** 下位は外傾し、上位は大きく外傾する。
底面 概ね平坦。
遺物 なし。
備考 壁際や下位に貼壁が認められる。

SK35 (第43図)

位置 4-14区C-D-16 **重複関係** なし。
遺存状態 良好。
覆土 黒褐色土が基調で、自然堆



第44図 SK37・38実測図(1/60)



第45図 SK39・40実測図(1/60)

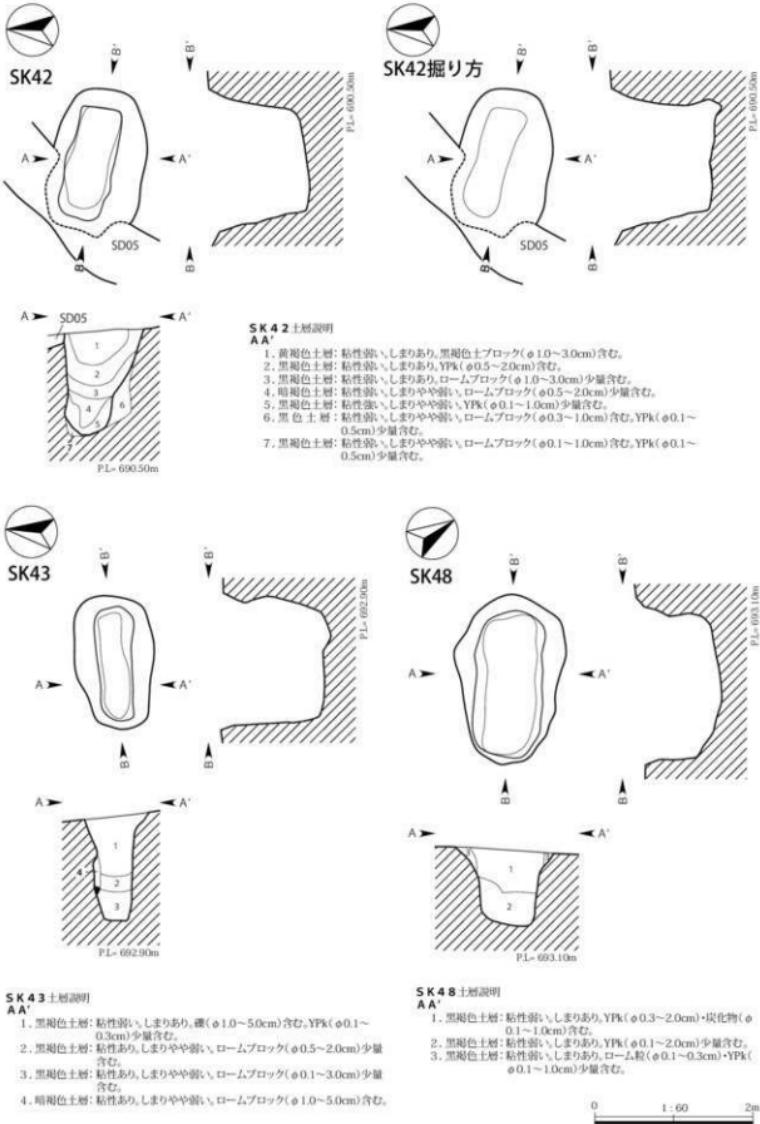
積を示す。 平面形と規模 上面形が梢円形、下面形が長方形を呈する。規模は長軸196cm、短軸122cm、深さ100cm。 主軸方位 N-84°-E 壁面 下位は外傾し、上位は大きく外傾する。 底面 梱ね平坦。 遺物 弥生土器が1点出土しているが、小破片で遺構には伴わない判断し、図示しなかった。 備考 なし。

SK36 (第43図)

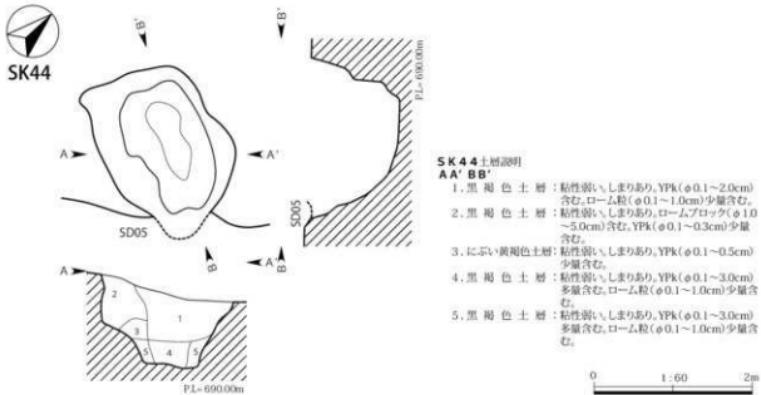
位置 4-14区C-15 重複関係 なし。 遺存状態 良好。 覆土 黒褐色土が基調で、下層にぶい黄褐色土が堆積する。自然堆積を示す。 平面形と規模 上面形が梢円形、下面形が長方形を呈する。規模は長軸214cm、短軸150cm、深さ130cm。 主軸方位 N-77°-E 壁面 下位は外傾し、上位は大きく外傾する。 底面 梱ね平坦。 遺物 なし。 備考 なし。

SK37 (第44図)

位置 4-14区E-12 重複関係 SD05と重複し、本遺構の方が古い。 遺存状態 上層をSD05によつて削平されているが、概ね良好。 覆土 黒褐色土が基調で、下層にぶい黄褐色土が堆積する。人為堆積を示す。 平面形と規模 梢円形を呈する。規模は長軸推定184cm、短軸112cm、深さ100cm。 主軸方位 N-66°-W 壁面 下位は外傾し、上位はほぼ垂直に立ち上がる。 底面 梱ね平坦。 遺物 なし。 備考 壁際や下位に貼壁が認められる。



第46図 SK42・43・48実測図(1/60)



第47図 SK44実測図(1/60)

SK38 (第44図)

位置 4-14区C-14 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、下層にぶい黄褐色土が堆積する。人為堆積を示す。 **平面形と規模** 上面形が不整円形、下面形が長方形を呈する。規模は長軸256cm、短軸224cm、深さ195cm。 **主軸方位** N-21°-E **壁面** 下位は外傾し、上位は大きく外傾する。 **底面** 極ね平坦。 **遺物** なし。 **備考** なし。

SK39 (第45図)

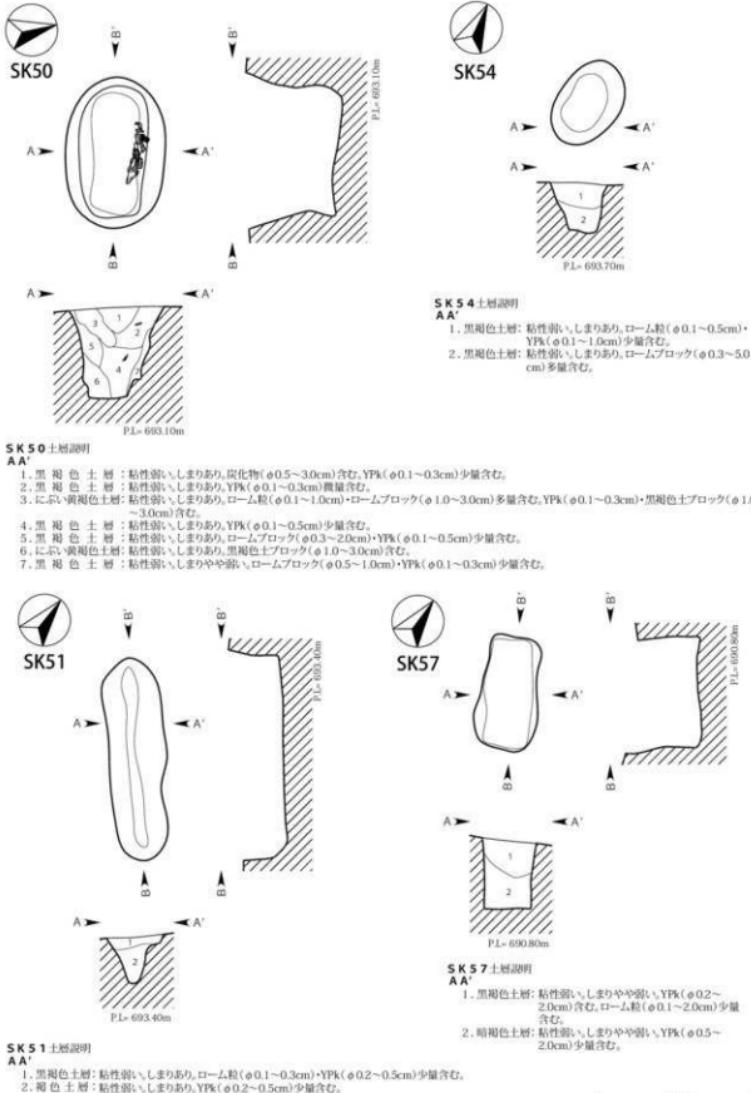
位置 4-14区C-17 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、下層は、灰黄褐色土が堆積する。自然堆積を示す。 **平面形と規模** 上面形が橢円形、下面形が長方形を呈する。規模は長軸194cm、短軸110cm、深さ130cm。 **主軸方位** N-73°-W **壁面** 下位は外傾し、上位は大きく外傾する。 **底面** 極ね平坦。 **遺物** なし。 **備考** なし。

SK40 (第45図)

位置 4-14区C-13 **重複関係** SD06と重複し、本遺構の方が古い。 **遺存状態** 上層をSD06によって削平されているが、概ね良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、人為堆積を示す。 **平面形と規模** 上面形が橢円形、下面形が長方形を呈する。規模は長軸228cm、短軸140cm、深さ140cm。 **主軸方位** N-50°-W **壁面** 下位は外傾し、上位は大きく外傾する。 **底面** 極ね平坦。 **遺物** 繩文土器片が2点、頁岩の剥片が1点出土しているが、遺構には伴わないと判断し示しなかった。 **備考** なし。

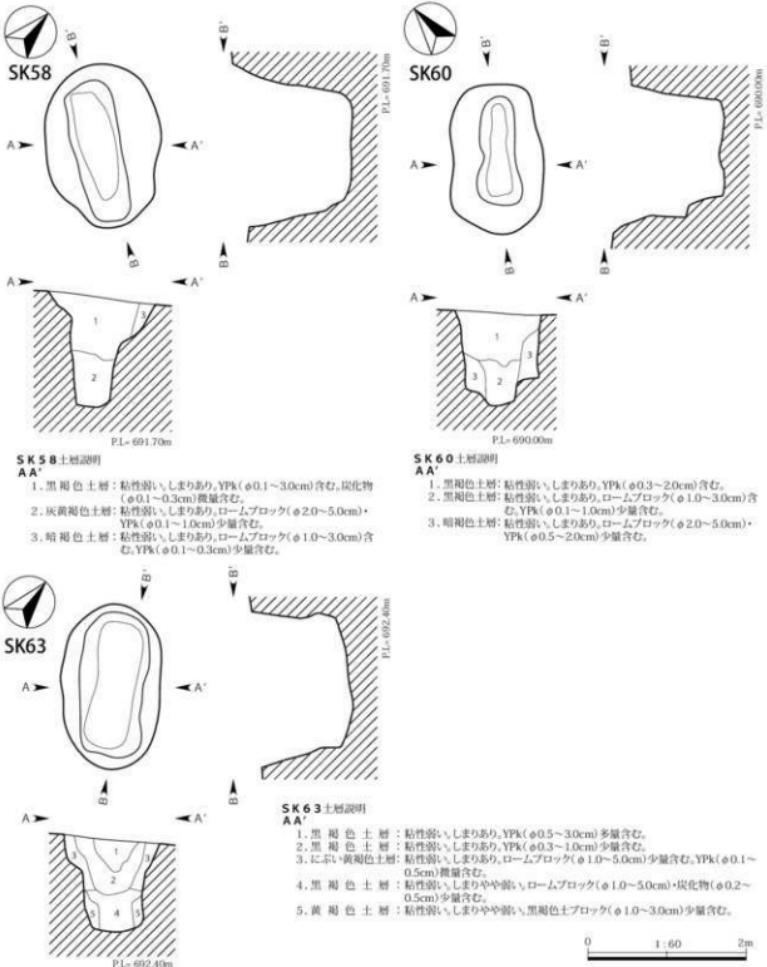
SK42 (第46図)

位置 4-14区F-12 **重複関係** SD05と重複し、本遺構の方が古い。 **遺存状態** 上層をSD05によつて削平されているが、概ね良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、上層に黄褐色土が堆積する。自然堆積を示す。 **平面形と規模** 上面形が橢円形、下面形が長方形を呈する。規模は長軸推定188cm、短軸118cm、深さ130cm。 **主軸方位** N-83°-W **壁面** 下位は外傾し、上位は大きく外傾する。 **底面** 極ね平坦。 **遺物** なし。 **備考** 壁際や下位に貼壁が認められる。



0 1:60 2m

第48図 SK50・51・54・57実測図(1/60)



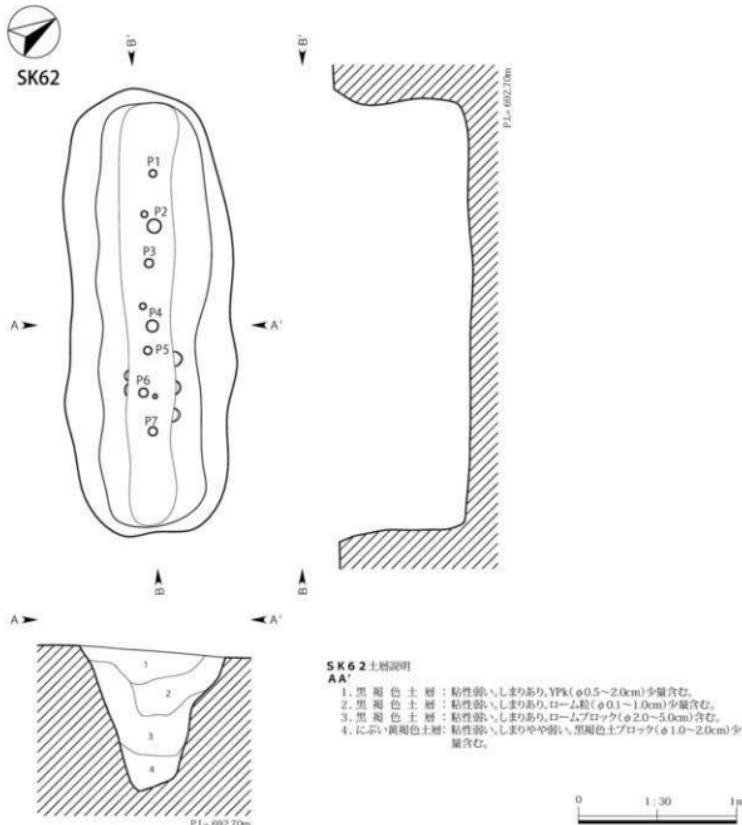
第49図 SK58-60-63実測図(1/60)

SK43 (第46図／PL 5)

位置 4-14区D-16 重複関係 なし。遺存状態 良好。覆土 黒褐色土が基調で、人為堆積を示す。

平面形と規模 上面形が橢円形、下面形が長方形を呈する。規模は長軸 170cm、短軸 102cm、深さ 130cm。

主軸方位 N-77°-E 壁面 下位は外傾し、上位は大きく外傾する。壁の一部が崩落している。底面 構造平坦。遺物 弥生土器片が1点出土しているが、遺構には伴わないと判断し図示しなかった。備考

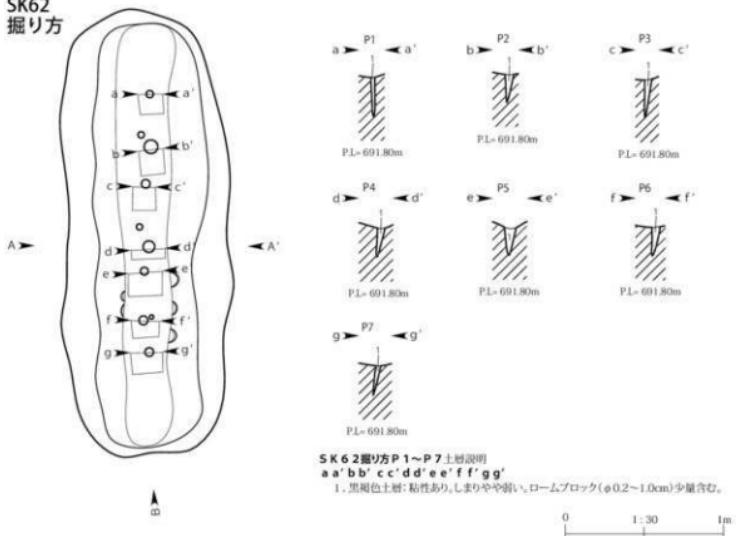


第50図 SK62実測図(1/30)

なし。

SK44 (第 47 図)

位置 4-14 区 F-11 **重複関係** SD05 と重複し、本遺構の方が古い。 **遺存状態** 上層を SD05 によつて削平されているが、概ね良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 上面形が不整円形、下面形が楕円形を呈する。規模は長軸推定 221cm、短軸 158cm、深さ 88cm。 **主軸方位** N-68°-W **壁面** 下位は外傾し、上位は大きく外傾する。 **底面** 概ね平坦。 **遺物** なし。 **備考** 検出時の平面形から 1 基の陥し穴としたが、別の土坑と重複した遺構の可能性がある。

SK62
掘り方

第51図 SK62掘り方実測図(1/30)

SK48 (第46図／PL 5)

位置 4-13区R-13 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。

平面形と規模 上面形が不整梢円形、下面形が長方形を呈する。規模は長軸 214cm、短軸 116cm、深さ 95cm。

主軸方位 N-57°-W **壁面** 下位は外傾し、上位は大きく外傾する。 **底面** 概ね平坦。 **遺物** 弥生土器が6点、黒曜石の剥片が1点出土しているが、遺構には伴わないとの判断し図示しなかった。 **備考** なし。

SK50 (第48図／PL 6)

位置 4-13区R-11 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土を基調とし、一部にぶ

い黄褐色土が混入する。人為堆積を示す。 **平面形と規模** 上面形が梢円形、下面形が長方形を呈する。規模

は長軸 190cm、短軸 126cm、深さ 115cm。 **主軸方位** N-80°-W **壁面** 下位は外傾し、上位は大きく

外傾する。 **底面** 概ね平坦。 **遺物** 繩文土器片が12点出土しているが、遺構には伴わないとの判断し図示

しなかった。 **備考** 上層から炭化物塊が出土しているが人為的な埋戻しによる混入物と考えられる。

SK51 (第48図)

位置 4-13区R-10 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 上層に黒褐色土、下層は褐色土

が堆積する。人為的堆積を示す。 **平面形と規模** 上面形が長梢円形、下面形は細梢円形を呈する。規模は

長軸 256cm、短軸 64cm、深さ 55cm。 **主軸方位** N-43°-W **壁面** 下位は外傾し、上位は大きく外傾する。

底面 概ね平坦。 **遺物** なし。 **備考** 底面に坑底ピットは見られないが、形態はSK62と類似しており、平安時代末～中世に帰属すると考えられる。

SK54 (第48図)

位置 4-13区R-9 **重複関係** S102と重複し、本遺構の方が新しい。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 長方形に近い橢円形を呈する。規模は長軸118cm、短軸76cm、深さ60cm。 **主軸方位** N-7°-E **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦。 **遺物** なし。 **備考** 上部が削平され、下部のみ残存している。

SK57 (第48図)

位置 4-14区D-12 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、下層は暗褐色土が堆積する。自然堆積を示す。 **平面形と規模** 長方形を呈する。規模は長軸142cm、短軸68cm、深さ85cm。 **主軸方位** N-32°-W **壁面** ほぼ垂直に立ち上がる。 **底面** 概ね平坦。 **遺物** 繩文土器片が2点出土しているが、遺構には伴わないと判断し図示しなかった。 **備考** 平面形は長方形を呈し、上部が削平されているが、他の陥し穴の下面形の形態と類似していたため、陥し穴とした。

SK58 (第49図／PL 6)

位置 4-14区C-13 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、人為堆積を示す。 **平面形と規模** 上面形が橢円形、下面形が長方形を呈する。規模は長軸198cm、短軸142cm、深さ135cm。 **主軸方位** N-55°-W **壁面** 下位は外傾し、上位は大きく外傾する。 **底面** 概ね平坦。 **遺物** 繩文土器が11点出土しているが、遺構には伴わないと判断し図示しなかった。 **備考** なし。

SK60 (第49図)

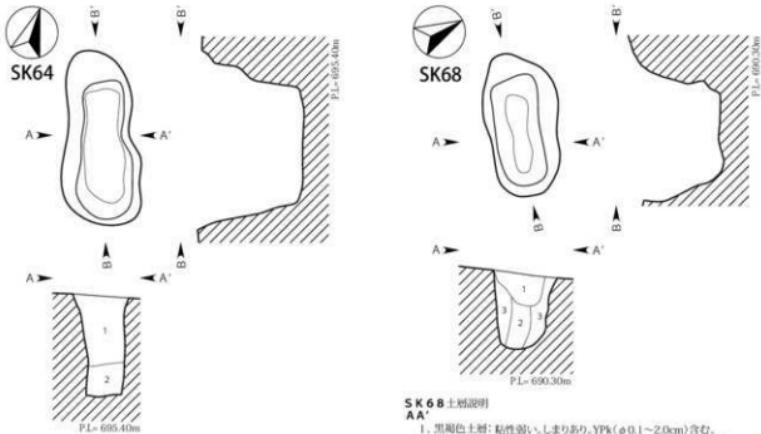
位置 4-14区E-11 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土を基調とし、下層の壁際に暗褐色土が混入する。自然堆積を示す。 **平面形と規模** 上面形が橢円形、下面形が長方形を呈する。規模は長軸190cm、短軸114cm、深さ115cm。 **主軸方位** N-43°-E **壁面** 下位は外傾し、上位はほぼ垂直に立ち上がる。 **底面** 概ね平坦。 **遺物** 弥生土器が1点出土しているが、遺構には伴わないと判断し図示しなかった。 **備考** なし。

SK62 (第50・51図／PL 6)

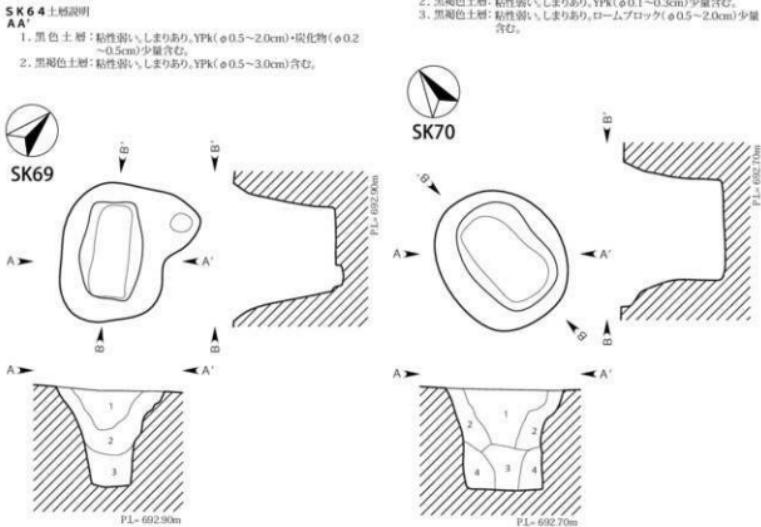
位置 4-13区T-13 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土を基調とし、下層には薄い黄褐色土が堆積する。自然堆積を示す。 **平面形と規模** 上面形が長楕円形、下面形が細長方形を呈する。規模は長軸282cm、短軸100cm、深さ88cm。 **主軸方位** N-58°-W **壁面** 下位は外傾し、上位は大きく外傾する。長軸方向の東西壁に工具痕が見られる。 **底面** 概ね平坦で、底面に直線状に7基の坑底ピットが並ぶ。いずれも円形の平面形を呈し、長軸2~5cm、短軸1~5cm、深さ16~24cm。断面形は二等辺三角形を呈し、杭跡と考えられる。 **遺物** なし。 **備考** 平・断面形状から、平安時代末～中世に帰属すると考えられる。

SK63 (第49図／PL 6)

位置 4-14区B-10 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、下層の壁際に黄褐色土が堆積し、地山の崩落が確認できる。自然堆積を示す。 **平面形と規模** 上面形が橢円形、下面形が長方形を呈する。規模は長軸208cm、短軸122cm、深さ115cm。 **主軸方位** N-34°-W **壁面** 下位は外傾し、上位は大きく外傾する。 **底面** 概ね平坦。 **遺物** 弥生土器が3点出土しているが、遺構には伴



上野一遺跡



SK69 上層説明
AA'

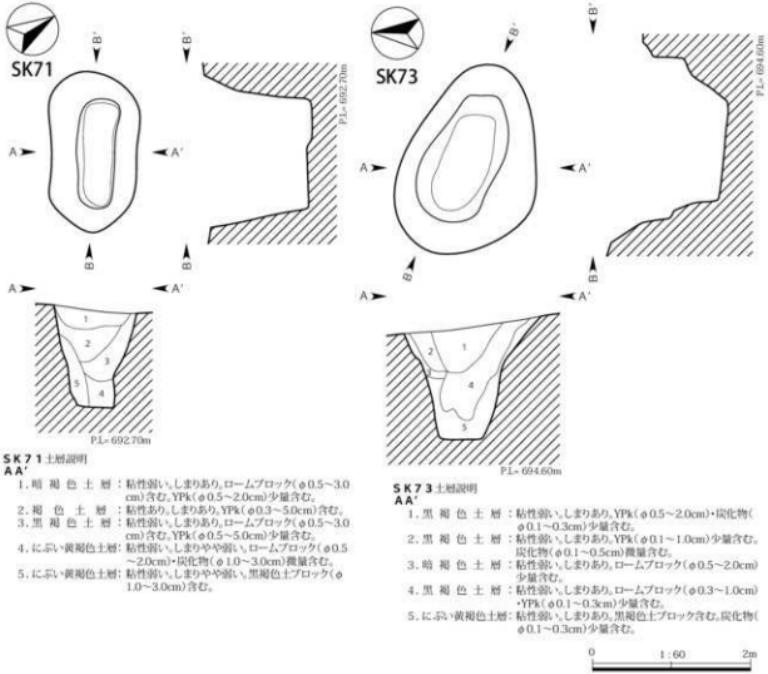
1. 黒褐色土層: 粘性弱い、しまりあり、YPk(φ 0.1~0.5cm)少量含む。炭化物(φ 0.1~0.3cm)微量含む。
2. 黑褐色土層: 粘性弱い、しまりあり、ローム粒(φ 0.1~0.5cm)・ロームブロック(φ 1.0~3.0cm)含む。
3. 黑褐色土層: 粘性弱い、しまりやや弱い、ローム粒(φ 0.1~0.3cm)含む。ロームブロック(φ 1.0~5.0cm)・YPk(φ 0.1~0.3cm)少量含む。

SK70 上層説明
AA'

1. 黒褐色土層: 粘性弱い、しまりあり、YPk(φ 0.1~1.0cm)含む。炭化物(φ 0.1~0.3cm)微量含む。
2. 黑褐色土層: 粘性弱い、しまりあり、YPk(φ 0.1~3.0cm)少量含む。炭化物(φ 0.1~0.3cm)微量含む。
3. 黑褐色土層: 粘性弱い、しまりあり、ロームブロック(φ 0.5~2.0cm)少量含む。炭化物(φ 0.5~1.0cm)微量含む。
4. 黄褐色土層: 粘性弱い、しまりやや弱い、黒褐色土ブロック(φ 0.1~3.0cm)含む。

0 1:60 2m

第52図 SK64・68～70実測図(1/60)



第53図 SK71・73実測図(1/60)

わないと判断し図示しなかった。 備考 なし。

SK64 (第52図)

位置 4-13区O-14 重複関係 なし。 遺存状態 良好。 覆土 黒褐色土が基調で、人為堆積を示す。 平面形と規模 上面形が楕円形、下面形が長方形を呈する。規模は長軸220cm、短軸76cm、深さ125cm。

主軸方位 N-21°-W 壁面 下位はほぼ垂直に立ち上がり、上位は外傾する。 底面 概ね平坦。 遺物 なし。 備考 なし。

SK68 (第52図)

位置 4-14区E-11 重複関係 なし。 遺存状態 良好。 覆土 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。

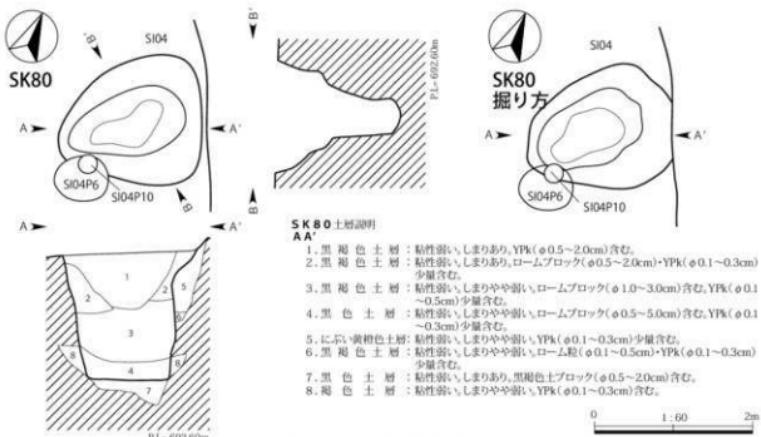
平面形と規模 上面形が不整楕円形、下面形が長方形を呈する。規模は長軸180cm、短軸82cm、深さ95cm。

主軸方位 N-74°-W 壁面 下位は外傾し、上位は大きく外傾する。 底面 概ね平坦。 遺物 なし。

備考 なし。

SK69 (第52図)

位置 4-14区A-15 重複関係 なし。 遺存状態 良好。 覆土 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。



第54図 SK80実測図(1/60)

平面形と規模 上面形が不整橢円形、下面形が長方形を呈する。規模は長軸 177cm、短軸 128cm、深さ 120cm。

主軸方位 N - 38° - W **壁面** 下位は外傾し、上位は大きく外傾する。 **底面** 概ね平坦。 **遺物** なし。

備考 北東部にピット状の落ち込みがある。

SK70 (第 52 図)

位置 4 - 14 区 A - 14 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、下層の壁際に黄褐色土が混入する。自然堆積を示す。 **平面形と規模** 上面形が円形、下面形が長方形を呈する。規模は長軸 182cm、短軸 146cm、深さ 125cm。 **主軸方位** N - 11° - W **壁面** 下位はほぼ垂直に立ち上がり、上位は大きく外傾する。 **底面** 概ね平坦。 **遺物** なし。 **備考** なし。

SK71 (第 53 図 / P L 6)

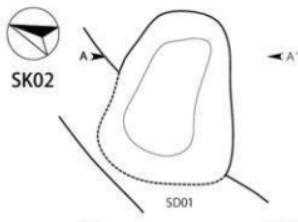
位置 4 - 14 区 A - 14 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 褐色 - 黒褐色土が基調で、下層ににぶい黄褐色土が堆積する。自然堆積を示す。 **平面形と規模** 上面形が橢円形、下面形が長方形を呈する。規模は長軸 202cm、短軸 108cm、深さ 120cm。 **主軸方位** N - 57° - W **壁面** 下位は外傾し、上位は大きく外傾する。 **底面** 概ね平坦。 **遺物** なし。 **備考** なし。

SK73 (第 53 図)

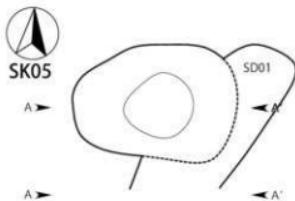
位置 4 - 13 区 R - 16 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、下層はにぶい黄褐色土が堆積する。自然堆積を示す。 **平面形と規模** 上面形が不整橢円形、下面形が長方形を呈する。規模は長軸 250cm、短軸 178cm、深さ 140cm。 **主軸方位** N - 69° - W **壁面** 下位は外傾し、上位は大きく外傾する。 **底面** 凹凸がある。 **遺物** なし。 **備考** なし。

SK80 (第 54 図 / P L 6)

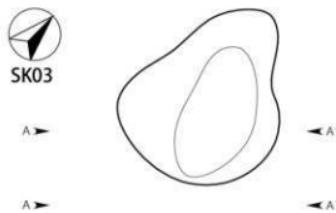
位置 4 - 14 区 A - 10 **重複関係** SI04 と重複し、本遺構の方が古い。 **遺存状態** 上部が SI04 によって削平されているが、概ね良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 上面形が不

SK02 土層説明
AA'

1. 黒褐色土層：粘性弱い、しまりやや弱い、ローム粒(φ0.1～5.0cm)少量含む。炭化物(φ0.1～0.3cm)微量含む。
2. 暗褐色土層：粘性なし、しまりやや弱い、ローム粒(φ0.1～5.0cm)少量含む。

SK05 土層説明
AA'

1. 暗褐色土層：粘性弱い、しまりやや弱い、ローム粒(φ0.1～1.0cm)含む。YPk(φ0.1～0.5cm)・炭化物(φ0.1～0.5cm)少量含む。
2. にぶい黄褐色土層：粘性弱い、しまりやや弱い、ローム粒(φ0.5～2.0cm)含む。

SK03 土層説明
AA'

1. 細褐色土層：粘性弱い、しまりやや弱い、ローム粒(φ0.1～1.0cm)含む。炭化物(φ0.1～0.3cm)少量含む。
2. にぶい黄褐色土層：粘性弱い、しまりやや弱い、ロームブロック(φ0.5～2.0cm)含む。

SK06 土層説明
AA'

1. 黒褐色土層：粘性弱い、しまりやや弱い、ローム粒(φ0.1～0.3cm)・YPk(φ0.1～0.2cm)少量含む。
2. 黑褐色土層：粘性弱い、しまりやや弱い、ローム粒(φ0.1～0.5cm)・YPk(φ0.1～0.5cm)少量含む。

0 1:30 1m

第55図 SK02-03-05-06実測図(1/30)

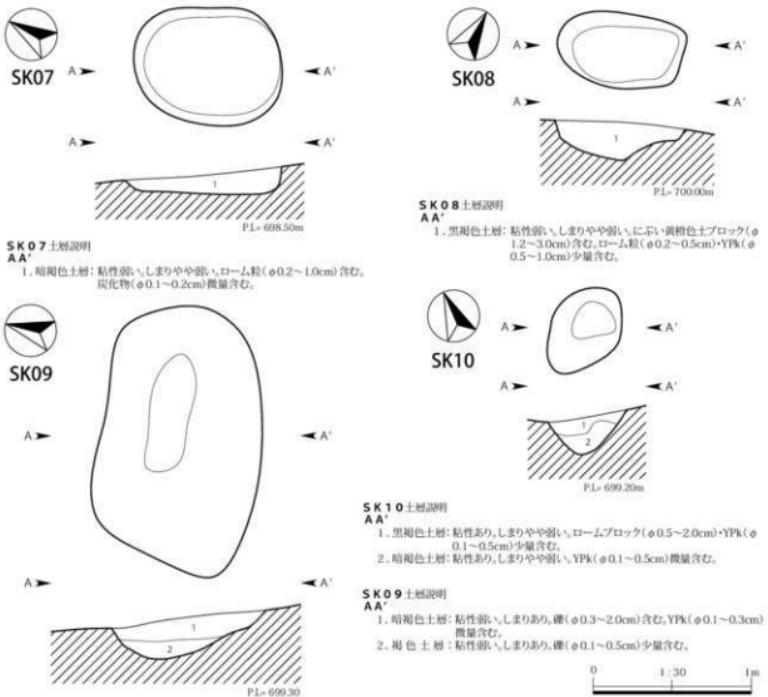
整楕円形、下面形が長方形を呈する。規模は長軸180cm、短軸164cm、深さ135cm。
- E 壁面 下位は外傾して立ち上がり、上位は大きく外傾する。底面 稼ね平坦。
9点出土しているが、遺構には伴わないと判断し図示しなかった。
備考 なし。

主軸方位 N-62°
遺物 弥生土器片が

第4節 時期不明の遺構と遺物

(1) 土坑

形態に特徴がなく、出土遺物がない遺構については帰属時期は不明である。



第56図 SK07~10実測図(1/30)

SK02 (第55図)

位置 4-24区E-5 **重複関係** SD01と重複し、本遺構の方が古い。 **遺存状態** 西側がSD01によって削平されているが概ね良好。 **覆土** 暗褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 楕円形を呈する。規模は長軸推定110cm、短軸66cm以上、深さ33cm。 **主軸方位** N-75°-E **壁面** 外傾して立ち上がる。

底面 概ね平坦。 **遺物** 繩文土器の破片、黒曜石の剥片1点ずつが出土しているが、遺構には伴わないとの判断し図示しなかった。 **備考** 他の縄文晩期から弥生前期とした土坑とは覆土、形態が異なり、帰属時期は不明である。

SK03 (第55図)

位置 4-24区E-7 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 暗褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 不整椭円形を呈する。規模は長軸120cm、短軸80cm、深さ34cm。 **主軸方位** N-18°-W **壁面** 外傾して緩やかに立ち上がる。 **底面** 概ね平坦。 **遺物** なし。 **備考** なし。

SK05 (第55図)

位置 4-24区E-5 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 暗褐色土が基調で、下層はにぶい



第57図 SK11・15実測図(1/30)

黄褐色土が堆積する。自然堆積を示す。
平面形と規模 楕円形を呈する。規模は長軸推定 105cm、短軸 70cm 以上、深さ 44cm。
主軸方位 N-85°-E
壁面 外傾して緩やかに立ち上がる。
底面 概ね平坦。
遺物 なし。
備考 なし。

SK06 (第55図)

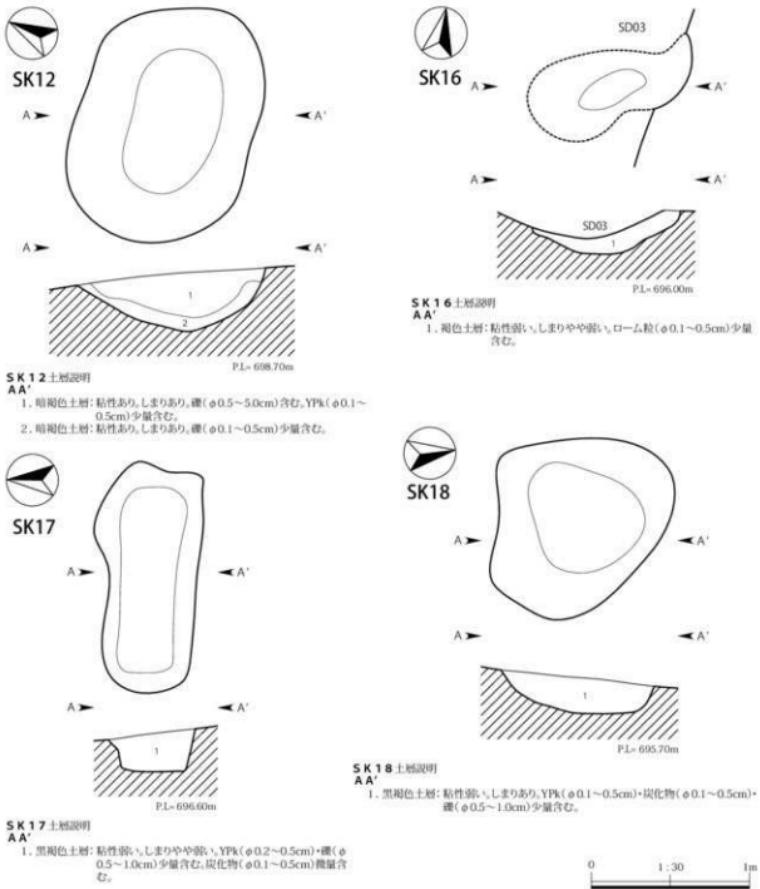
位置 4-24区E-6
重複関係 なし。
遺存状態 良好。
覆土 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。
平面形と規模 長方形を呈する。規模は長軸 134cm、短軸 92cm、深さ 23cm。
主軸方位 N-77°-E
壁面 外傾して立ち上がる。
底面 概ね平坦。
遺物 なし。
備考 なし。

SK07 (第56図)

位置 4-24区D-6
重複関係 なし。
遺存状態 良好。
覆土 暗褐色土が基調で、人為堆積を示す。
平面形と規模 楕円形を呈する。規模は長軸 92cm、短軸 73cm、深さ 16cm。
主軸方位 N-31°-W
壁面 外傾して緩やかに立ち上がる。
底面 概ね平坦。
遺物 なし。
備考 なし。

SK08 (第56図)

位置 4-24区C-9
重複関係 なし。
遺存状態 良好。
覆土 黒褐色土が基調で、人為堆積を示す。
平面形と規模 楕円形を呈する。規模は長軸 80cm、短軸 46cm、深さ 24cm。
主軸方位 N-58°-E
壁面 外傾して立ち上がる。
底面 概ね平坦。
遺物 なし。
備考 なし。



第58図 SK12・16～18実測図(1/30)

SK09 (第56図)

位置 4-24区B-7 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 上層に暗褐色土、下層に褐色土が堆積する。人為堆積を示す。 **平面形と規模** 不整椭円形を呈する。規模は長軸170cm、短軸97cm、深さ24cm。 **主軸方位** N-63°-E **壁面** 外傾して緩やかに立ち上がる。 **底面** 程度平坦。 **遺物** なし。 **備考** なし。

SK10 (第56図)

位置 4-24区A-6 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。

平面形と規模 楕円形を呈する。規模は長軸 61cm、短軸 44cm、深さ 23cm。**主軸方位** N-58°-E
壁面 外傾して立ち上がる。**底面** 凹凸がある。**遺物** なし。**備考** なし。

SK11 (第 57 図)

位置 4-14 区 D-20 **重複関係** なし。**遺存状態** 良好。**覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。
平面形と規模 楕円形を呈する。規模は長軸 140cm、短軸 80cm、深さ 27cm。**主軸方位** N-76°-W
壁面 外傾して立ち上がる。**底面** 概ね平坦。**遺物** なし。**備考** なし。

SK12 (第 58 図)

位置 4-24 区 B-6 **重複関係** なし。**遺存状態** 良好。**覆土** 暗褐色土が基調で、自然堆積を示す。
平面形と規模 楕円形を呈する。規模は長軸 154cm、短軸 110cm、深さ 38cm。**主軸方位** N-88°-E
壁面 外傾して立ち上がる。**底面** 概ね平坦。**遺物** なし。**備考** なし。

SK15 (第 57 図)

位置 4-24 区 D-3 **重複関係** なし。**遺存状態** 良好。**覆土** 上層に黒褐色土、下層に暗褐色土が堆積する。自然堆積を示す。**平面形と規模** 長方形を呈する。規模は長軸 156cm、短軸 84cm、深さ 38cm。
主軸方位 N-79°-W **壁面** 外傾して立ち上がり、南側に段を有する。**底面** 概ね平坦。**遺物** なし。**備考** なし。

SK16 (第 58 図)

位置 4-24 区 E-3 **重複関係** SD03 と重複し、本遺構の方が古い。**遺存状態** 上層が SD03 によって削平されているが、概ね良好。**覆土** 褐色土が基調で、人為堆積を示す。**平面形と規模** 不整椭円形を呈する。規模は長軸推定 109cm、短軸推定 53cm、深さ 13cm。**主軸方位** N-61°-E **壁面** 外傾して立ち上がる。**底面** 概ね平坦。**遺物** なし。**備考** なし。

SK17 (第 58 図)

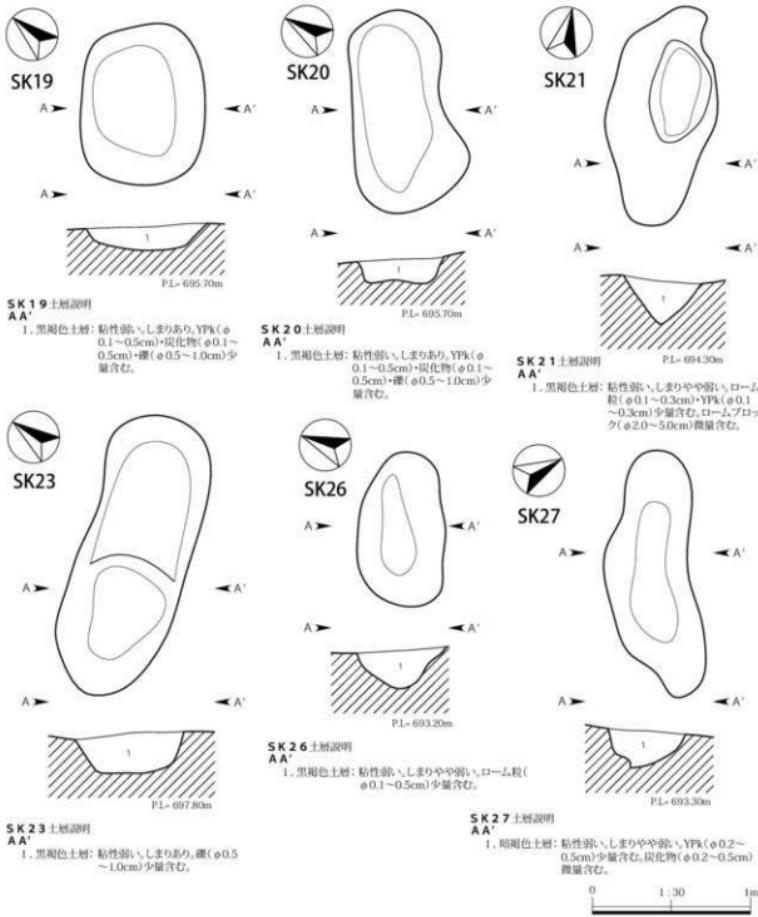
位置 4-24 区 A-2 **重複関係** なし。**遺存状態** 良好。**覆土** 黒褐色土が基調で、人為堆積を示す。
平面形と規模 長方形を呈する。規模は長軸 146cm、短軸 69cm、深さ 24cm。**主軸方位** N-86°-E
壁面 外傾して立ち上がる。**底面** 概ね平坦。**遺物** なし。**備考** なし。

SK18 (第 58 図)

位置 4-24 区 A-1 **重複関係** なし。**遺存状態** 良好。**覆土** 磚を含む黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。**平面形と規模** 楕円形を呈する。規模は長軸 132cm、短軸 113cm、深さ 22cm。**主軸方位** N-25°-W **壁面** 外傾して立ち上がる。**底面** 概ね平坦。**遺物** なし。**備考** 埋没谷の覆土と類似し、地形の落ち込みの可能性がある。

SK19 (第 59 図)

位置 4-24 区 B-1 **重複関係** なし。**遺存状態** 良好。**覆土** 磚を含む黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。**平面形と規模** 長方形を呈する。規模は長軸 102cm、短軸 78cm、深さ 15cm。**主軸方位** N-53°-E **壁面** 外傾して立ち上がる。**底面** 概ね平坦。**遺物** なし。**備考** 埋没谷の覆土と類似し、地形の落ち込みの可能性がある。



第59図 SK19~21・23・26・27実測図(1/30)

SK20 (第59図)

位置 4-24 区B-1 重複関係 なし。 遺存状態 良好。 覆土 磚を含む黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 平面形と規模 不整形を呈する。規模は長軸 126cm、短軸 56cm、深さ 15cm。 主軸方位 N-54°E 壁面 外傾して立ち上がる。 底面 概ね平坦。 遺物 なし。 備考 埋没谷の覆土と類似し、地形の落ち込みの可能性がある。

SK21 (第 59 図)

位置 4-14 区 D-19 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、人為堆積を示す。
平面形と規模 不整楕円形を呈する。規模は長軸 140cm、短軸 60cm、深さ 28cm。 **主軸方位** N-3°-W
壁面 外傾して立ち上がる。 **底面** 北側に傾斜する。 **遺物** なし。 **備考** なし。

SK23 (第 59 図)

位置 4-23 区 T-4 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 磚を含む黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 不整楕円形を呈する。規模は長軸 182cm、短軸 66cm、深さ 26cm。 **主軸方位** N-69°-E
壁面 外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦。 **遺物** なし。 **備考** 埋没谷の覆土と類似し、地形の落ち込みの可能性がある。

SK26 (第 59 図)

位置 4-14 区 E-17 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、人為堆積を示す。
平面形と規模 楕円形を呈する。規模は長軸 97cm、短軸 54cm、深さ 24cm。 **主軸方位** N-70°-E
壁面 外傾して立ち上がる。 **底面** 凹凸がある。 **遺物** なし。 **備考** なし。

SK27 (第 59 図)

位置 4-14 区 C-17 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 暗褐色土が基調で、人為堆積を示す。
平面形と規模 不整長楕円形を呈する。規模は長軸 154cm、短軸 50cm、深さ 24cm。 **主軸方位** N-68°-W
壁面 外傾して立ち上がる。 **底面** 凹凸がある。 **遺物** なし。 **備考** なし。

SK30 (第 60 図)

位置 4-14 区 E-16 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、人為堆積を示す。
平面形と規模 不整楕円形を呈する。規模は長軸 101cm、短軸 78cm、深さ 46cm。 **主軸方位** N-88°-E
壁面 外傾して立ち上がる。 **底面** 凹凸がある。 **遺物** なし。 **備考** なし。

SK32 (第 60 図)

位置 4-14 区 D-14 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 褐色土が基調で、自然堆積を示す。
平面形と規模 不整楕円形を呈する。規模は長軸 100cm、短軸 68cm、深さ 35cm。 **主軸方位** N-70°-E
壁面 外傾して立ち上がり、西側の一部が内傾する。 **底面** 概ね平坦。 **遺物** なし。 **備考** なし。

SK41 (第 60 図)

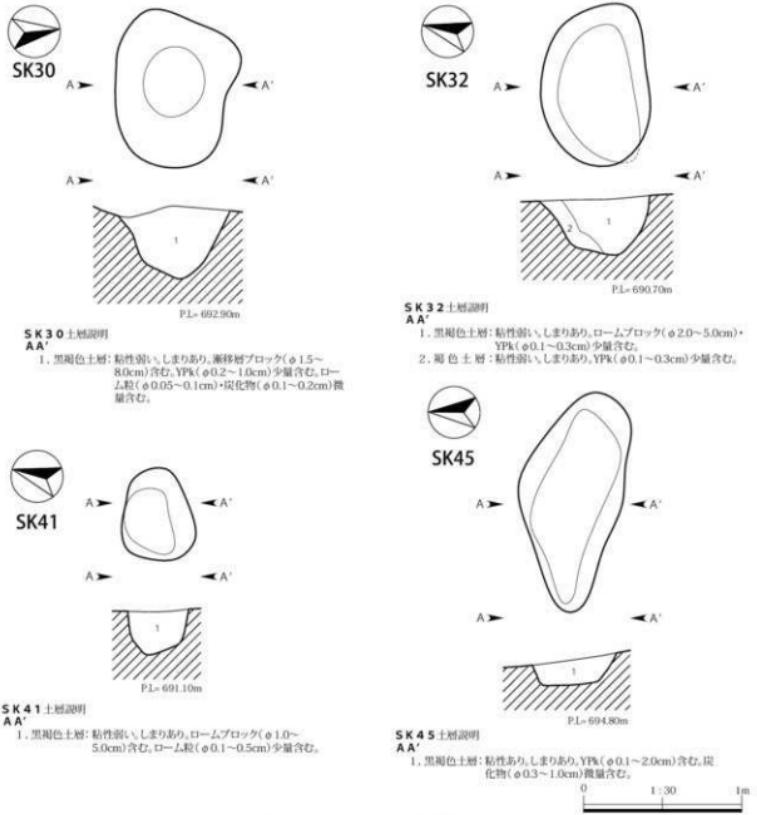
位置 4-14 区 D-13 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、人為堆積を示す。
平面形と規模 楕円形を呈する。規模は長軸 60cm、短軸 38cm、深さ 27cm。 **主軸方位** N-63°-E
壁面 外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦。 **遺物** なし。 **備考** なし。

SK45 (第 60 図)

位置 4-13 区 M-10 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、人為堆積を示す。
平面形と規模 不整楕円形を呈する。規模は長軸 140cm、短軸 60cm、深さ 16cm。 **主軸方位** N-83°-W
壁面 外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦。 **遺物** なし。 **備考** なし。

SK49 (第 61 図)

位置 4-13 区 Q-14 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 上層に黒褐色土、下層に暗褐色



第60図 SK30-32-41-45実測図(1/30)

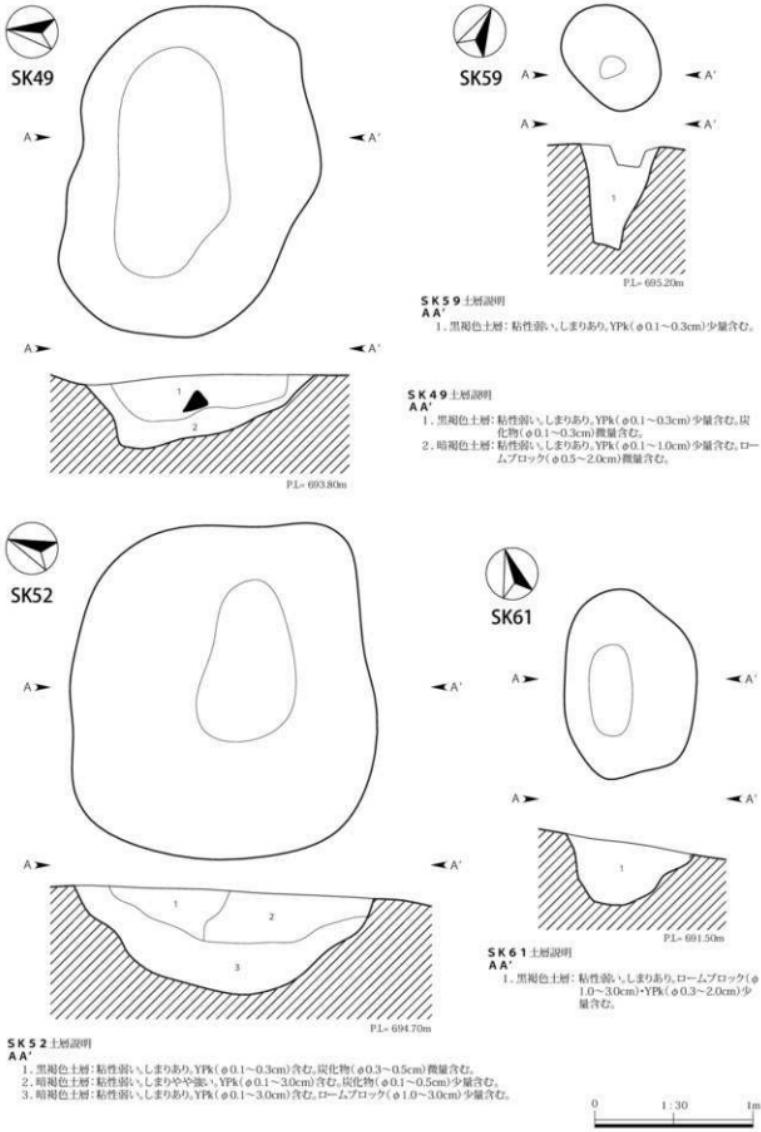
土が堆積する。自然堆積を示す。**平面形と規模** 楕円形を呈する。規模は長軸 214cm、短軸 157cm、深さ 44cm。**主軸方位** N-82°-W **壁面** 外傾して立ち上がる。**底面** 四凸がある。**遺物** なし。**備考** なし。

SK52 (第 61 図)

位置 4-13 区 M-9 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 上層に黒褐色土、下層に暗褐色土が堆積する。人為的な堆積を示す。**平面形と規模** 方形を呈する。規模は長軸 211cm、短軸 94cm、深さ 65cm。**主軸方位** N-69°-E **壁面** 外傾して立ち上がる。**底面** 概ね平坦。**遺物** なし。**備考** なし。

SK59 (第 61 図)

位置 4-13 区 O-13 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、人為堆積を示す。



第61図 SK49・52・59・61実測図(1/30)

平面形と規模 楕円形を呈する。規模は長軸 70cm、短軸 54cm、深さ 53cm。**主軸方位** N-57°-W
壁面 外傾して立ち上がる。**底面** 概ね平坦。**遺物** なし。**備考** なし。

SK61 (第 61 図)

位置 4-14 区 C-11 **重複関係** なし。**遺存状態** 良好。**覆土** 黒褐色土が基調で、人為堆積を示す。
平面形と規模 楕円形を呈する。規模は長軸 118cm、短軸 83cm、深さ 40cm。**主軸方位** N-14°-E
壁面 外傾して立ち上がる。**底面** 概ね平坦。**遺物** なし。**備考** なし。

SK66 (第 62 図)

位置 4-13 区 R-10 **重複関係** なし。**遺存状態** 良好。**覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。
平面形と規模 長方形を呈する。規模は長軸 270cm、短軸 117cm、深さ 40cm。**主軸方位** N-68°-E
壁面 ほぼ垂直に外傾して立ち上がる。**底面** 概ね平坦。北壁の中央から P 1 が検出された。楕円形を呈し、長軸 10cm、短軸 6cm、深さ 11cm。本遺構に伴うピットだが、他のピットは検出されず、性格は不明である。**遺物** なし。**備考** 試掘 57-2 号トレンチ SK03 である。

SK74 (第 62 図)

位置 4-14 区 D-8 **重複関係** なし。**遺存状態** 良好。**覆土** 黒褐色土が基調で、人為堆積を示す。
平面形と規模 楕円形を呈する。規模は長軸 75cm、短軸 54cm、深さ 29cm。**主軸方位** N-10°-W
壁面 外傾して立ち上がる。**底面** 概ね平坦。**遺物** なし。**備考** なし。

SK76 (第 62 図)

位置 4-13 区 O-9 **重複関係** なし。**遺存状態** 良好。**覆土** 黒褐色土が基調で、人為堆積を示す。
平面形と規模 楕円形を呈する。規模は長軸 64cm、短軸 38cm、深さ 38cm。**主軸方位** N-51°-E
壁面 外傾して立ち上がる。**底面** 西側に傾斜する。**遺物** なし。**備考** なし。

SK78 (第 62 図)

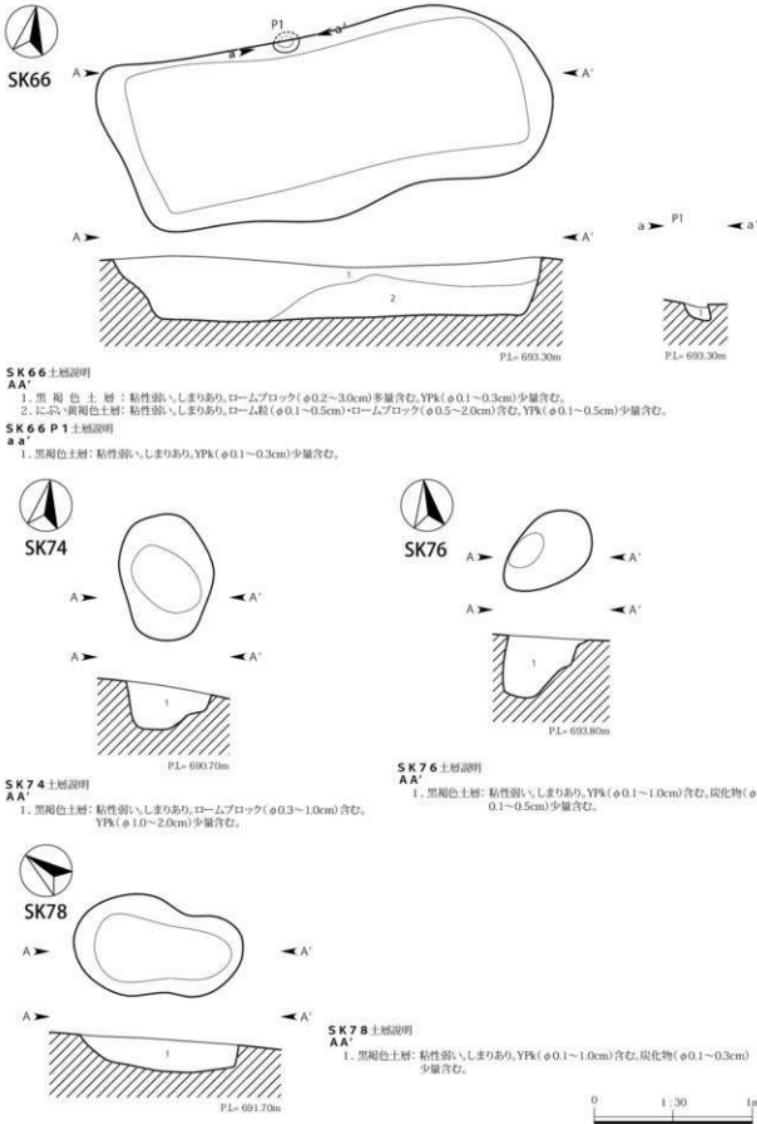
位置 4-14 区 B-12 **重複関係** なし。**遺存状態** 良好。**覆土** 黒褐色土が基調で、人為堆積を示す。
平面形と規模 楕円形を呈する。規模は長軸 106cm、短軸 52cm、深さ 19cm。**主軸方位** N-37°-W
壁面 外傾して立ち上がる。**底面** 概ね平坦。**遺物** 弥生土器が 5 点出土しているが、小破片で遺構には伴わないと判断し、図示しなかった。**備考** なし。

SK79 (第 63 図)

位置 4-14 区 F-5 **重複関係** なし。**遺存状態** 良好。**覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。
平面形と規模 円形を呈する。規模は長軸 102cm、短軸 90cm、深さ 38cm。**主軸方位** N-58°-E
壁面 外傾して立ち上がる。**底面** 概ね平坦だが、一部に凹凸がある。**遺物** なし。**備考** なし。

SK82 (第 63 図／PL 6)

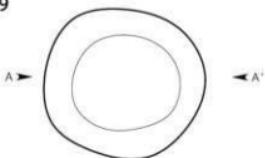
位置 4-13 区 T-6 **重複関係** なし。**遺存状態** 北側が調査区外にあるが、概ね良好。**覆土** 上層に焼土が堆積するが、地山に被熱は見られない。人為堆積を示す。**平面形と規模** 不整楕円形を呈する。規模は長軸 136cm 以上、短軸 99cm、深さ 17cm。**主軸方位** N-14°-E
壁面 外傾して立ち上がる。**底面** 凹凸がある。**遺物** なし。**備考** 一部に立石が認められ、時期は不明だが石組みの炉かカマドの可能性がある。



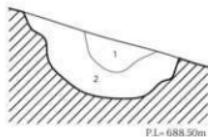
第62図 SK66・74・76・78実測図(1/30)



SK79



A → ← A'



SK79 土層説明

AA'

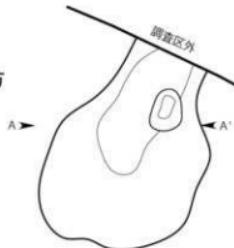
1. 黒褐色土層：粘性弱い、しまりあり。YPk(φ 0.1~0.3cm)少量含む。炭化物(φ 0.1~0.3cm)微量含む。
2. 黒褐色土層：粘性弱い、しまりあり。ロームブロック(φ 1.0~3.0cm)・YPk(φ 0.1~0.3cm)少量含む。



SK82

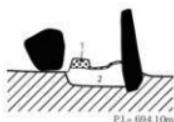


A → ← A'

SK82
掘り方

A →

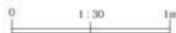
← A'



SK82 土層説明

AA'

1. 赤褐色土層：粘性弱い、しまりあり。炭化物(φ 0.1~0.3cm)含む。
2. 褐色土層：粘性弱い、しまりあり。YPk(φ 0.1~0.5cm)・炭化物(φ 0.1~0.3cm)少量含む。



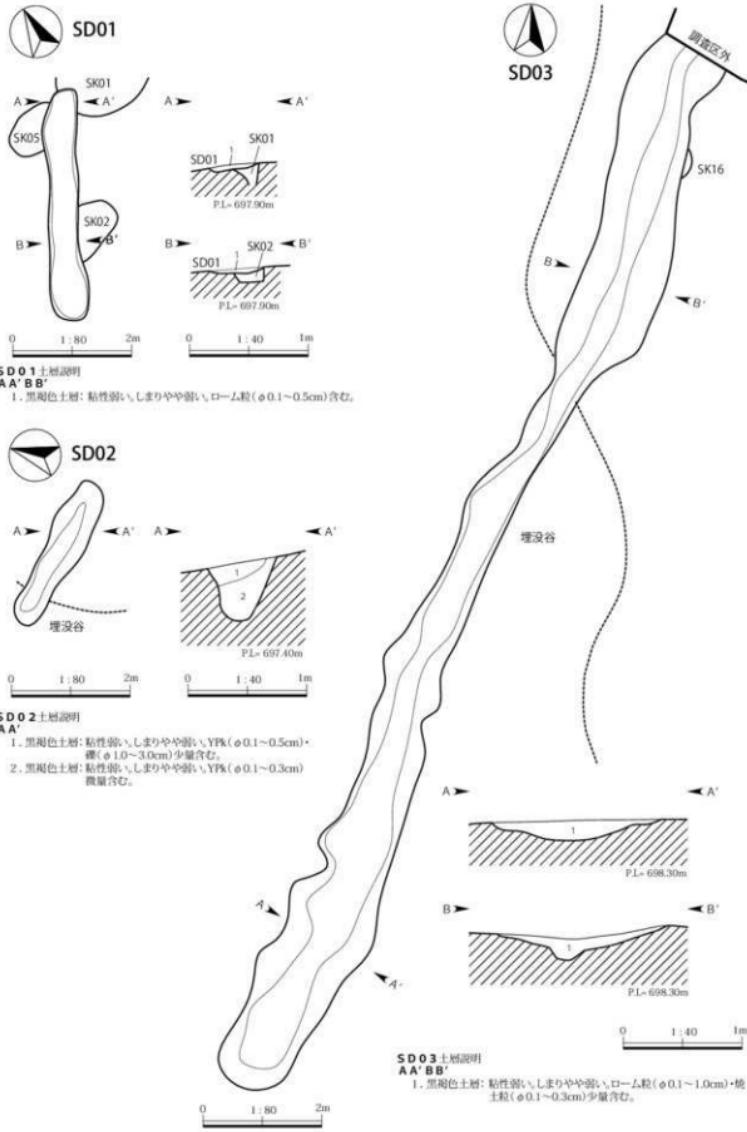
第63図 SK79・82実測図(1/30)

(2) 溝

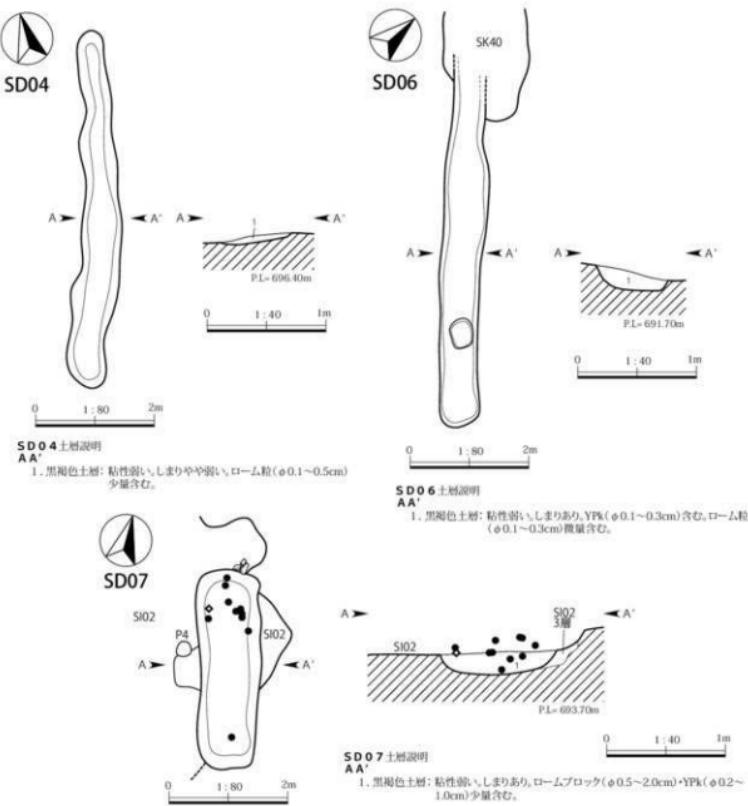
SD01 (第64図)

位置 4-24区E-5 **重複関係** SK01・02・05と重複し、本遺構の方が新しい。 **遺存状態** 良好。

覆土 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **規模** 長さ 3.9 m、幅 47cm、深さ 5cm。 **主軸方位** N-27°-E **遺物** なし。 **備考** 南北方向の地形の傾斜に沿って走行する自然流路の可能性がある。



第64図 SD01～03実測図(1/40・1/80)



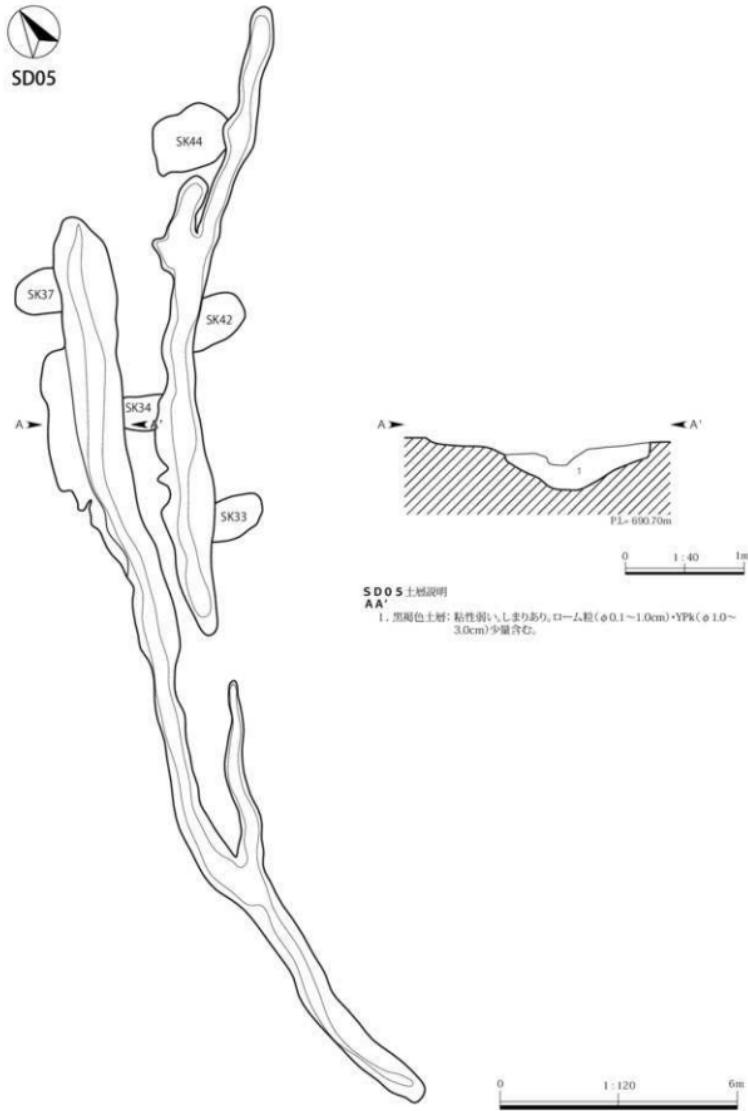
第65図 SD04・06・07実測図(1/40・1/80)

SD02 (第64図)

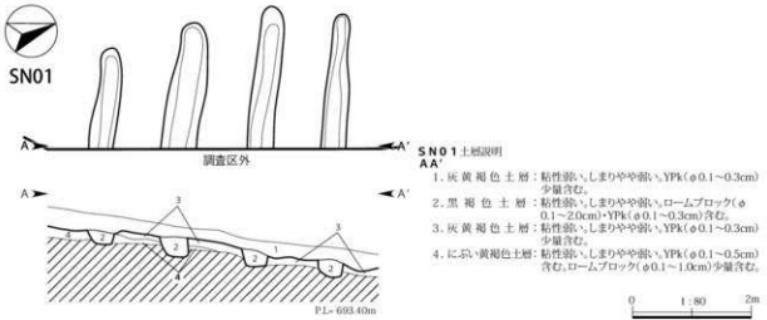
位置 4-24区D-E-5 重複関係 なし。 遺存状態 良好。 覆土 黒褐色土が基調で、人為堆積を示す。 規模 長さ 2.64 m、幅 50cm、深さ 50cm。 主軸方位 N-77°-W 遺物 なし。 備考 なし。

SD03 (第64図)

位置 4-24区C-E-3~6 重複関係 SK16と重複し、本遺構の方が新しい。 遺存状態 北側が調査区外にあるが、概ね良好。 覆土 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 規模 長さ 19.14 m以上、幅 1.46 m、深さ 18cm。 主軸方位 N-21°-E 遺物 灰釉陶器が1点出土しているが、小破片のため図示しなかつた。 備考 南北方向の地形の傾斜に沿って走行する自然流路の可能性がある。



第66図 SD05実測図(1/40・1/120)



第67図 SN01実測図(1/80)

SD04 (第65図)

位置 4-24 区E-3・4 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **規模** 長さ 6.05 m、幅 80cm、深さ 4 cm。 **主軸方位** N-15°-E **遺物** なし。 **備考** 南北方向の地形の傾斜に沿って走行する自然流路の可能性がある。

SD05 (第66図)

位置 4-14 区D-G-11~16 **重複関係** SK33・34・37・42・44と重複し、本遺構の方が新しい。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **規模** 長さ 27.96 m、幅 1.44 m、深さ 30cm。 **主軸方位** N-24°-E **遺物** なし。 **備考** 南北方向の地形の傾斜に沿って走行する自然流路の可能性がある。

SD06 (第65図)

位置 4-14 区C・D-13・14 **重複関係** SK40と重複し、本遺構の方が新しい。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、人為堆積を示す。 **規模** 長さ 6.02 m以上、幅 76cm、深さ 16cm。 **主軸方位** N-47°-W **遺物** なし。 **備考** なし。

SD07 (第65図)

位置 4-13 区R-S-9・10 **重複関係** SI02と重複し、本遺構の方が新しい。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、人為堆積を示す。 **規模** 長さ 3.36 m、幅 1 m、深さ 19cm。 **主軸方位** N-17°-W **遺物** 土師器の甕が 60 点、杯が 1 点、須恵器の杯が 3 点出土している。 **備考** 出土遺物は SI02 に帰属する遺物と考えられ、明確な時期は不明である。

(3) 番跡

SN01 (第67図)

位置 4-14 区F-15 **重複関係** なし。 **遺存状態** 4条の平行する溝が確認され、上部が削平され、東側が調査区外にある。 **覆土** 黒褐色土が基調で人為堆積を示す。 **規模** 長さ 2.42 m、幅 4.3 m、歛幅 42~60cm、深さ 9~21cm、面積 10.40m²。 **主軸方位** N-70°-W **遺物** 陶磁器が 1 点出土しているが、小破片のため図示しなかった。 **備考** 底面に耕作痕は見られず、施肥溝の可能性がある。出土遺物から近世の可能性がある。

(4) ピット (第68図／第11・13表／PL 8)

今回の発掘調査では、ピットは17基確認された。P 07以外のピットはいずれも時期を特定することは困難であるため、全て時期不明とした。建物の柱穴と考えられるピットは確認されなかった。P 06・P 15は遺構とならず、欠番とした。全てのピットの平面形や規模などの情報は、第11表に記載した。

第11表 上野I遺跡ピット観察表(2)

遺構名	位置	平面形	規模(cm)			覆土	備考	遺構名	位置	平面形	規模(cm)			覆土	備考
			長軸長	短軸長	深さ						長軸長	短軸長	深さ		
P01	4-24区E-7	円形	34	34	38	A		P11	4-13区R-12	円形	28	26	20	A	
P02	4-24区A-4	円形	35	30	38	A		P12	4-13区S-12	円形	25	25	36	A	
P03	4-24区C-1	橢円形	55	38	22	A		P13	4-13区R-11	橢円形	29	24	17	A	
P04	4-14区E-19	円形	50	46	46	A		P14	4-13区R-14	円形	76	68	58	A	
P05	4-14区D-19	円形	25	20	26	A		P16	4-13区R-11	円形	22	20	17	A	
P06	4-13区N-10	橢円形	24	17	22	B		P17	4-13区S-13	円形	26	23	17	A	
P09	4-14区A-13	円形	35	35	22	A		P18	4-14区B-10	橢円形	27	16	61	A	
P10	4-13区S-12	橢円形	30	20	34	A		P19	4-13区R-11	橢円形	24	20	28	A	

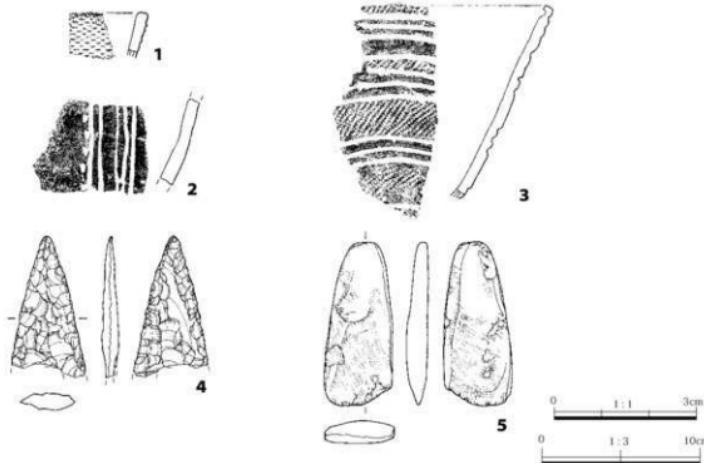
※ A: 黒褐色土 B: 暗褐色土



第68図 ピット出土遺物実測図(1/3)

第5節 遺構外出土遺物 (第69図／第13表／PL 8)

ここでは、調査区表土および確認面出土遺物を掲載する。遺構外の遺物は北西部で縄文時代晩期の土器が多く出土しており、SI02の周辺からは縄文時代早期の押型文土器が出土している。石器は蛇紋岩製の磨製石器、黒曜石製の石鏃が出土している。これらの遺物から、遺存状態の良いものを選んで図示した。



第69図 遺構外出土遺物実測図(1/1・1/3)

第5章まとめ

今回発掘調査を行なった上野Ⅰ遺跡では、縄文時代晚期から弥生前期の土坑10基、ピット1基、平安時代の堅穴住居跡5軒（建て替え1軒含む）、陥し穴33基、平安時代末～中世の陥し穴2基、時期不明の土坑34基、ピット16基、溝7条、畑1面が確認された。

縄文時代晚期から弥生前期と推定される土坑群は調査区の北西側、平坦部に分布し、遺物も土坑群の周辺から出土している。堅穴住居跡を含めて集落域は確認出来ず、調査区外の北側に広がっていると考えられる。

出土した土器群は条痕文を施した土器が最も多く、併せて沈線文が施される土器が見られた。以下の通りに分かれる。なおカッコ内の番号は第14・15・19・23・第69図3)。小破片のため変形工字文のみの精製土器(7・8)。

壺 縄文施文。沈線文によって工字文・変形工字文が施される(17)。無文。口縁部下位にミガキ(10)。

甕 条痕文のみ(1・2・14・16、20～22)。口縁部は複合口縁で縦位から斜位の条痕文が施される(11)。外面に縦位の条痕文を施し、綾杉状の刻みを梢円形の沈線文によって区画する(18)。外面に単節LR縄文を施す(5・12・13)。無文(6)。

個々の土器群に対して明確な型式の判断は難しいが、縄文晚期の冰I・II式や大潤A・A'式、千網式から、沖II式などの弥生前期に比定される土器群への移行期の隙間を埋める資料であると考えられる。

SIO1～SIO4A・B号住居は、いずれも出土した土師器や灰陶陶器から平安時代に属し、9世紀後半～10世紀前半の短期間に小規模な集落を形成していたと見られる。SIO3からは鉄滓、鞆の羽口が出土しており、鍛冶関連の施設を伴う可能性が考えられたが、採取した焼土からは鍛造剥片や粒状滓は確認できず、小鍛冶の痕跡は見られなかった。

陥し穴は平安時代33基、平安末～中世2基が検出されている。陥し穴の形態は2種類に分かれる。1類は平面形の上面形が梢円形、下面形が長方形、下面形が細くなる漏斗状の断面を呈する。本遺跡で検出された陥し穴はほとんどが同形態である。2類は平面形が長方形で壁は直線状に立ち上がり、底面は平坦で、杭跡を持つ例もある。遺物などは出土していないが、平安時代から中世に比定された三平II遺跡の陥し穴と形態が類似している。1類については、下層の地山にYPkが堆積し、壁面の崩落防止にローム土での貼壁を行なっている。貼壁についてはYPkが堆積していない堅緻な地山でもローム土での貼り付けが行われる例が見られ、時間経過の中で、軽石層の崩落防止のための貼壁作業が形骸化したものと考えられる。

集落は調査区の北西側の平坦部、陥し穴は東側の平坦部から斜面部に分布している。陥し穴域と集落域で、一部重複は見られるが、基本的には領域は区分されていたと考えられ、集落域は東沢の下流に位置する上野Ⅱ遺跡へ移動したと見られる。

第12表 上野Ⅰ遺跡平安時代住居跡諸属性一覧

遺構名	長軸方向	規模(m・m)				主柱配置	カマド	周溝	付帯施設	遺物				時期	
		主軸	副軸	壁高	面積					位置	構築方法	灰縞	墨書き	羽口	
SIO1	N-32°-E	4.06	4.04	0.15	15.5	2本・ 壁柱穴	北壁 土で造成	—	貯蔵穴	—	—	—	—	—	9世紀後半～ 10世紀前半
SIO2	N-31°-E	(4.92)	5.83	0.29	<33.56>	3本	北壁 土で造成	石組・ 北東	飛土	—	—	—	○	—	9世紀後半～ 10世紀前半
SIO3	N-50°-E	4.70	5.19	0.27	20.16	4本	北壁・ 北東壁 土で造成	西	飛土	○	—	—	○	○	9世紀後半～ 10世紀前半
SIO4A	N-54°-E	<3.98>	<4.63>	0.53	<15.04>	2本か	東壁 土で造成	東	—	—	—	—	—	—	9世紀後半～ 10世紀前半
SIO4B	N-57°-E	5.46	5.86	0.40	26.39	4本か	東壁 土で造成	—	礫石か	—	—	—	—	—	9世紀後半～ 10世紀前半

第13表 上野 | 遺跡出土遺物観察表

編文・孳生時代土作出土遺物観察表

番号	時期	遺物	法面 / 断面 / (口径・底径) (mm)	特徴 (形態・手法等)	現況	断土・材質等	色調(外山・内山)	備考
14-1	7	筒之器・ 筒	(3.2) / -/-	外に赤褐色を有する。内山削出している。小切削痕（五箇所目）か。	良好	研削・赤色	に赤い痕 赤色	
14-2	7	筒之器・ 筒	(4.0) / -/-	外端にわずかに赤色。内山削出する。小切削痕（八箇所目）か。	良好	研削・白色	に赤い痕 白色	
14-3	7	筒之器・ 筒	(8.3) / -/-	筒の上部に刃状の削り跡がある。下部に内山削出 内山は輪切り子。底延外端に削り跡。	良好	研削・白色	に赤い痕 白色	
14-4	7	筒之器・ 筒	(11.6) / -/-	内山削出の輪文が複数回ほどつけて文字を施す。内山削出子。外山削出子。外山削出子。	良好	研削・白色	白地に赤茶 白色	口端部・底部 15% 破損。
14-5	7	筒之器・ 筒	(16.0) / -/-	外全体に削り LR 線文、内山削出子。輪文削出子。輪文削出子。	良好	研削・白色	に赤い痕 白色	
14-6	7	筒之器・ 筒	(14.7) / -/-	外端に輪切り削り跡がある。内山削出子。輪文削出子。	良好	研削・白色	に赤い痕 白色	
14-7	7	筒之器・ 筒	(4.0) / -/-	外端は輪切り削り跡で、文字を施す。内山は輪切り子。外山削出子。	良好	研削・白色	黒地に赤い痕 白色	
14-8	7	筒之器・ 筒	(2.7) / -/-	外端に輪切り削り跡が施される。わずかに内山、内山削出子。外山削出子。	良好	研削・白色	黒地に赤い痕 白色	
14-9	7	争牛土器・ 鬱	(5.1) / < 21.0 > / -	口端部に輪切りの状況で、内山削出子。第二折筋付。	良好	研削・白色	白地に赤茶 白色	口端部 20% 破損。
14-10	7	争牛土器・ 鬱	(4.2) / -/-	内山削出子。外山削出子に当たる。争牛の跡跡。	良好	研削・白色	白地に赤茶 白色	口端部 15% 破損。
14-11	7	争牛土器・ 鬱	(4.0) / < 20.0 > / -	口端部に輪切り削り跡から底部の縦毛文が施される。内山削出子。表面削出子。	良好	研削・白色	白地に赤茶 白色	口端部 25% 破損。
14-12	7	争牛土器・ 鬱	(5.1) / -/-	外山削出 LR 線文、ミダラの渦巻。内山削出子。争牛の跡跡。	良好	研削・白色	黒地に赤い痕 白色	
14-13	7	争牛土器・ 鬱	(4.5) / -/-	外山削出 LR 線文、内山削出子。争牛の跡跡。	良好	研削・白色	白地に赤茶 白色	
14-14	7	争牛土器・ 鬱	(8.7) / -/-	外山削出。内山削出子。争牛の跡跡。	良好	研削・白色	黒地に赤茶 白色	
14-15	7	争牛土器・ 鬱	(3.2) / -/-	外山削出 LR 線文、内山削出子。争牛の跡跡。	良好	研削・白色	白地に赤茶 白色	
14-16	7	争牛土器・ 鬱	(10.2) / -/-	底部に近い部分の外壁に輪文が施される。内山削出子。外山削出子。	良好	研削・白色	白地に赤茶 白色	
14-17	7	争牛土器・ 鬱	(5.2) / -/-	外山削出 LR 線文を施した後、底の文字を施す。内山削出子。争牛の跡跡。	良好	研削・白色	白地に赤茶 白色	
15-18	7	争牛土器・ 鬱	(0.6) / -/-	外端に輪切りの差頭と手綱し、縫合の跡みが複数回によって施される。争牛の跡跡。	良好	研削・白色	白地に赤茶 白色	
15-19	7	争牛土器・ 鬱	(3.9) / -/-	外端に前筋 LR 線文、2 号輪切り削り跡が平行で施文を施す。内山削出子。争牛の跡跡。	良好	研削・白色	白地に赤茶 白色	
15-20	7	争牛土器・ 鬱	(1.9) / -/-	底部本差頭。内山削出子。争牛の跡跡。	良好	研削・白色	白地に赤茶 白色	
15-21	7	争牛土器・ 鬱	(3.0) / -/-	外端に差頭と、内山削出子。	良好	研削・白色	白地に赤茶 白色	
15-22	7	争牛土器・ 鬱	(6.3) / -/-	外端に差頭と、争牛の跡跡。	良好	研削・白色	白地に赤茶 白色	
15-23	7	筒之器・ 筒	(7.7) / < 23.4 > / -	外端に前筋 LR 線文と 2 号輪切り削り跡が施される。下位は单筋孔目筒。小底。保持筋。	良好	研削・白色	白地に赤茶 白色	口端部・底部 40% 破損。
15-24	7	争牛土器・ 鬱	(7.8) / -/-	外端に輪切りの差頭と平行で施文を施す。内山削り出し口端。内山削出子。	良好	研削・白色	白地に赤茶 白色	口端部 15% 破損。

S101出土遺物觀察表

種類No.	測量No.	面積	法面・底面・口径・底径(cm)	特徴(形態・手法等)	特徴(形態・手法等)	地況	断土・材質等	色調(外面・内面)	備考
19-1	7	上底面・底	(5.6) /—/—	コガラ袋状凹面。外縁端位へタケアリ。内縁端位へタケアリ。	良好	砂質・長石	褐色外面・白面	119底～118底 15%保有。	S001
19-2	7	上底面・底	(5.4) /—>21.0>/—	コガラ袋状凹面。外縁端位へタケアリ。中底面位へナナフ。	良好	砂質・長石	褐色外面・白面	119底～118底 20%保有。	S001P1
19-3	7	上底面・底	(4.8) /—/—	コガラ袋状凹面。外縁端位へタケアリ。口部底面彎曲後、下部は直立とする。内外底面に横筋のナナフ。	良好	砂質・長石	褐色外面・白面	119底 15%保有。	S001 蓋9万
19-4	7	底面・杆	(4.7) /—/—	ロクロ型。外縁口クロナナフ。外縁口クロ凹面。	良好	砂質・長石	褐色外面・白面	119底～118底 15%保有。	S011 1.2 斧

S102出土遺物觀察表

種類No.	測量No.	面積	法面・底面・口径・底径(cm)	特徴(形態・手法等)	地況	断土・材質等	色調(外面・内面)	備考	
25-1	7	上底面・奥	(0.4) /—/—	小型のロクロ型。外縁口クロナナフ。	良好	砂質・白色粒	灰青色・灰	118底～117底 10%保有。	S002P7
25-2	7	底面・杆	(8.0) /<20.0>/—	ロクロ型。外縁口クロナナフ。	良好	砂質・長石	灰青色・灰	118底～117底 20%保有。	S002P12

S103出土遺物觀察表

種類No.	測量No.	面積	法面・底面・口径・底径(cm)	特徴(形態・手法等)	地況	断土・材質等	色調(外面・内面)	備考	
31-1	8	底面・奥	(16.7) /—/—	外縁はナナフ端位。内縁ナナフ端位で一部削痕が残る。	良好	砂質・石英	褐色外面・白面	S0031・S0031・ 2号カマツ	
31-2	8	上底面・奥	(4.0) /<13.6>/—	黒色・黒。ロクロ型。外縁ロクロナナフ。	良好	砂質・石英	黑色・黑色	S003	
31-3	8	上底面・杆	(4.2) /<15.2>/—	黒色・黒。ロクロ型。外縁ロクロナナフ。内縁口クロナナフ。三行舟。118底～117底	良好	砂質・石英	黑色・黑色	S003	
31-4	8	底面・杆	(4.0) /<<16.0>>/—	黒色・黒。ロクロ型。外縁ロクロナナフ。内縁口クロナナフ。切欠き。体部(まつり)を削る。	良好	砂質・石英	黑色・白色粒	S0031P10	
31-5	8	底面・杆	(2.9) /—/ 6.8	ロクロ型。外縁ロクロナナフ。底面位に削痕を見る。[田] が入る。	良好	砂質・石英	浅灰	S003 1号カマツ	
31-6	8	底面・奥	(12.7) /—/—	外縁中平行き。内縁ナナフ端位。全体は削化している。	良好	砂質・石英	黑色・白色	S003 1号カマツ	
31-7	8	底面・奥	(13.8) /—/—	外縁中平行き。内縁端位ナナフ削痕。体部(まつり)にわずかな削痕。[田] が入る。	良好	砂質・白色粒	黑色・白色	S003・S0031・ 2号カマツ	
31-8	8	底面・奥	(0.2) /—/—	外縁は端位の凹側と底位とに削られ。内縁ナナフ削痕。[田] が入る。	良好	砂質・白色粒	褐色・灰白	S0031 P10号カマツ	
31-9	8	从拵向器・奥	3.1 /<14.0>/ 5.7	ロクロ型。外縁ロクロナナフ。施設端位に削痕。[田] が入る。底面位に削痕がある。	良好	砂質・白色粒	灰白	119底～118底 40%保有。	S03
31-10	8	从拵向器・奥	2.5 /<13.2>/ 7.0	ロクロ型。外縁ロクロナナフ。施設端位に削痕。[田] が入る。底面位に削痕がある。	良好	砂質・白色粒	灰白	119底～118底 40%保有。	S03

S104出土遺物觀察表

種類No.	測量No.	面積	法面・底面・口径・底径(cm)	特徴(形態・手法等)	地況	断土・材質等	色調(外面・内面)	備考
38-1	8	上底面・底	(1.06) /—/—	コガラ袋状凹面。口縁部は黒・外し、ドロボウ立消位にまで上がる。口縁部は内面に削	良好	砂質・長石	褐色外面・白面	S004・ホワイト
38-2	8	上底面・底	(7.8) /—/—	コガラ袋状凹面。口縁部は黒・外し、ドロボウ立消位に削。下部は削痕が多くある。外縁位に削	良好	砂質・長石	褐色外面・白面	S004

38. 3	8	上部器・裏 (6.0) /< 19.0 >/~	コロナ状の突起。口縁部は「外反」、下部は「内反」で構成される。外縁部はヘアライン。口縁部は中央部に横溝がある。口縁部は中央部に横溝がある。	口縁部は中央部に横溝がある。	口縁部・唇石・ 唇石・長石 良好	口縁部～底 20% 良好。	S04 カマリ
38. 4	8	上部器・ 杯 (4.0) /< 12.0 >/~ 4.8	口縁部。内側・外側ノド。底部に内凹。底部に見られる跡がある。「地」あり。	口縁部・ 唇石・ 唇石 良好	口縁部～底 30% 良好。	SD4	
38. 5	8	頂部・杯 (3.6) /< 13.3 >/~ 6.8	口縁部。内側・外側ノド。底部に内凹。底部に見られる跡がある。「地」あり。	口縁部・ 唇石・ 唇石 良好	口縁部～底 40% 良好。	SD4	
38. 6	8	頂部・杯 (4.4) /< 13.8 >/~	口縁部。内側・外側ノド。底部に内凹。底部に見られる跡がある。「地」あり。	口縁部・ 唇石・ 唇石 良好	口縁部～底 20% 良好。	SD4	
38. 7	8	頂部・杯 (4.0) /< 13.0 >/~ 8.0	口縁部。内側・外側ノド。底部に内凹。底部に見られる跡がある。「地」あり。	口縁部・ 唇石・ 唇石 良好	口縁部～底 20% 良好。	SD4	

ビット出土遺物観察表

種別No.	基盤	法面・端面・口縁・底面 (mm)	特徴 (形態・手触り)	地質	粘土・材質等	色調(外周・内面)	備考
68- 1	8	周文・器 384	(4.1) /< ~ /~	外周に横たわる突起。内面側面ナード。周文印押。	良好 砂粒・長石・ 長石 良好	黒褐色 / 黒褐色 / 黑褐色 (底面)	P08
68- 2	8	周文・器 384	(5.3) /< ~ /~	外周に横たわる突起。交互斜めに横たわる突起を備く。周文印押。	良好 砂粒・長石・ 長石 良好	黒褐色 / 黒褐色 / 黑褐色 (底面)	P08

遺構出土遺物観察表

種別No.	基盤	法面・端面・口縁・底面 (mm)	特徴 (形態・手触り)	地質	粘土・材質等	色調(外周・内面)	備考
69- 1	8	周文・器 484	(2.8) /< ~ /~	外周に押出文 (印文) を備す。内面側面ナード。周文印押。	良好 砂粒・長石 良好	黒褐色 / 黑褐色 (底面)	黒褐色
69- 2	8	周文・器 484	(5.3) /< ~ /~	外周に横たわる突起。内面側面に横たわる突起を備す。内面側面ナード。外面側面ナード。周文印押。	良好 砂粒・長石 良好	黒褐色 / 黑褐色 (底面)	良上
69- 3	8	外土器 484	(12.0) /< ~ /~	外周に横たわる突起。内面側面に横たわる突起を備す。内面側面ナード。外面側面ナード。周文印押。	良好 砂粒・長石・ 長石 良好	黒褐色 / 黒褐色 / 黑褐色 (底面)	S02 周辺
69- 4	8	削り石器 484	長 (3.0) /< 1.5 /~ 0.3	内面側面に横たわる突起。内面側面ナード。	— 黑褐色 良好	黒褐色 / 黒褐色	良上
69- 5	8	削り石器 484	長 10.2 /< 4.3 /~ 1.3	内面側面に横たわる突起。内面側面ナード。	— 黑褐色 良好	黒褐色 / 黒褐色	良上